

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77
78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110
111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138
139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166
167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194
195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222
223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77
78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110
111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138
139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166
167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194
195 196 197 198
A01 A02 A03 A04 A05 A06 A07 A08 A09 A10 A11 A12 A13 A14

社会共創センター
社会連携研究成果報告書
2025



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

社 会 共 創 セ ン タ ー
社 会 連 携 研 究 成 果 報 告 書

2 0 2 5

地域連携事業 ——— 4

産学連携事業 ——— 32

連携協定事業 ——— 50

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美術工芸大学の創造力を、 あなたの事業にお役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会共創センターを拠点に、
広く企業や研究機関・公共団体などとの連携活動を
推進しています。

POLICY	SYSTEM	NETWORK	FLOW	FIELD																																		
理念	活動体制	社会連携	活動の流れ	活動領域																																		
金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。 1. 本学の持つ美術・工芸・デザイン分野の知識や技術、社会連携で得られた成果を、広く社会に還元します。 2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。 3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。	テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。 ■研究制度 〔共同研究〕 企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度 〔受託研究〕 企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度 ■研究体制 〔授業導入型〕 学生の教育に有効なテーマを授業の一部として研究を推進。 近未来のビジョン・アドバンスデザインの研究成果が期待できます。 〔プロジェクト型（課外活動型）〕 教員の指導により研究を推進。 学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。 〔プロフェッショナル型〕 教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。	他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。 金沢美術工芸大学 社会共創センター 地域連携部門 産学連携部門 知財管理部門 共同研究 委託研究 情報提供 情報交流 各種連携機関 各種法人財団 産業界 行政機関 公共団体 教育・研究機関	以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密なプロセスをベースに研究を進めています。 ○ 商品の企画・開発にデザインを利用したい ○ CI・ブランド開発にデザインを活用したい ○ マーケティングにデザインを活用したい ○ 店舗・施設の開発にデザインを活用したい ○ 伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい ○ 美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい ○ 店舗・施設・オフィス等の空間にアートを取り入れたい ----- 1. 打ち合わせ（研究内容について事前の打合わせ） 研究目的 研究体制 研究方法 研究期間 研究予算 研究成果予測 その他事務手続き等 ----- 2. 見積もり（研究計画に基づいて概算） 経費明細 支払条件等 ----- 3. 契約締結（本学の研究委託契約書に基づいて締結） 知的財産権の取扱い 研究成果の公表時期 機密保持に関する取り決め等 ----- 4. 研究実施（テーマや規模に応じて、本学独自の体制研究を推進） オリエンテーション 調査 研究 デザイン制作等 プレゼンテーション 試作 製品化等 事例に応じた研究内容をご用意できます。 ----- 5. 研究完了（研究完了時に研究成果を報告） 研究成果報告書の作成 特許等の出願 契約等の締結 -----	美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。 本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。 美術系 日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学 / 映像 デザイン系 ホリスティックデザイン インダストリアルデザイン 工芸系 陶磁 / 漆・木工 / 鋳金・彫鍛金 / 染・織 専門領域分野 <table><tr><td>ヴィジュアルコミュニケーション</td><td>ファッションデザイン</td></tr><tr><td>広告デザイン</td><td>テキスタイルデザイン</td></tr><tr><td>サインデザイン</td><td>陶芸</td></tr><tr><td>映像・メディアデザイン</td><td>漆芸</td></tr><tr><td>Web デザイン</td><td>木工</td></tr><tr><td>パッケージデザイン</td><td>彫鍛金</td></tr><tr><td>ユニバーサルデザイン</td><td>鋳金</td></tr><tr><td>UI・UX デザイン</td><td>染織</td></tr><tr><td>ビジョンデザイン</td><td>モニュメント</td></tr><tr><td>モビリティデザイン</td><td>壁画</td></tr><tr><td>家具デザイン</td><td>材料・修復</td></tr><tr><td>家電・日用品デザイン</td><td></td></tr><tr><td>都市計画デザイン</td><td></td></tr><tr><td>建築デザイン</td><td></td></tr><tr><td>インテリアデザイン</td><td></td></tr><tr><td>ディスプレイデザイン</td><td></td></tr><tr><td>ランドスケープデザイン</td><td></td></tr></table>	ヴィジュアルコミュニケーション	ファッションデザイン	広告デザイン	テキスタイルデザイン	サインデザイン	陶芸	映像・メディアデザイン	漆芸	Web デザイン	木工	パッケージデザイン	彫鍛金	ユニバーサルデザイン	鋳金	UI・UX デザイン	染織	ビジョンデザイン	モニュメント	モビリティデザイン	壁画	家具デザイン	材料・修復	家電・日用品デザイン		都市計画デザイン		建築デザイン		インテリアデザイン		ディスプレイデザイン		ランドスケープデザイン	
ヴィジュアルコミュニケーション	ファッションデザイン																																					
広告デザイン	テキスタイルデザイン																																					
サインデザイン	陶芸																																					
映像・メディアデザイン	漆芸																																					
Web デザイン	木工																																					
パッケージデザイン	彫鍛金																																					
ユニバーサルデザイン	鋳金																																					
UI・UX デザイン	染織																																					
ビジョンデザイン	モニュメント																																					
モビリティデザイン	壁画																																					
家具デザイン	材料・修復																																					
家電・日用品デザイン																																						
都市計画デザイン																																						
建築デザイン																																						
インテリアデザイン																																						
ディスプレイデザイン																																						
ランドスケープデザイン																																						

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37			
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54			
55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71			
72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88			
89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104				
105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117							
118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130							
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143							
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156							
157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169							
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182							
183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195							
196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208							
209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220								

地 域 連 携 事 業

221	金沢 JAZZ STREET 2025 メインビジュアル作成	6
222	金沢マラソン 2025 メインビジュアル及び各種デザイン制作	7
223	庁舎前デジタルサイネージ等に表示する動画コンテンツの制作及び 大学院修士課程映像コースの修了制作の活用	8
224	金沢マラソン 2025 完走メダルのデザイン制作	9
225	児童館フェスティバル 文化・芸術ワークショップ 「暗闇の中でペイント 光る惑星をつくろう」	10
226	まちの格を高める広告物調査	11
227	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 36 回 光の回廊シリーズ 15『生きもののザワザワ』 作品展示・ワークショップ	12
228	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 37 回 第 14 回 ホスピタルギャラリー	13
229	金沢市「地域力創造プロジェクト」 学生がまちと関わりながら、地域への愛着と活性化を育む実践型プロジェクト	14
230	大学生モビリティマネージメント事業	15
231	金沢スタジアム周辺に設置する誘導サインのデザイン制作	16
232	金沢食文化月間及び食の祭典の広報発信	17
233	森と市民をつなぐ拠点施設整備に係るロゴマーク制作	18
234	金沢らしい文化的処方活用検討事業	19
235	木の文化都市 Web サイト制作	20
236	木の文化発信サインに係るデザイン研究	21
237	金沢競馬場デザインプロジェクト	22
238	環境保全型農業に関する新たな表示ラベル制作	23
239	きらめく！アート展（いしかわ障害者アート展）キュレーション・ワークショップ	24
240	能登半島地震地域コミュニティ再建事業の映像制作	25
241	能登半島絶景海道ロゴマーク作成	26
242	問屋町活性化事業	27
243	第 38 回 JAPAN TENT に係る T シャツ及び広報物のデザイン	28
244	輪島市立図書館 移動図書館車両デザイン	29
245	輪島市立小学校・中学校校章のデザイン作成	30

第16回目を迎える「金沢 JAZZ STREET 2025」では、昨年に引き続き本学がメインビジュアルの作成に取り組み、視覚デザイン専攻4年生の艸田一葉さんのデザインが採用された。デザインコンセプトは「金沢の秋に音楽が降る」である。世代や経験の有無に関わらず、多くの人がジャズの音色を楽しむ様子をイメージし、ジャズに親しむ人々の心に音楽がそっと降り注ぐ時間となることを願って制作した。

本メインビジュアルは好評を博し、次年度の制作依頼にもつながった。



市長報告



市長報告後取材



市長報告後取材



メインビジュアル

〔委託者名〕
金沢市文化政策課

〔期間〕
2025年2月～9月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
艸田 一葉 視覚デザイン専攻4年
上野 紗椰 視覚デザイン専攻4年
松下 和香 視覚デザイン専攻4年
山下 ラリナ 愛連 視覚デザイン専攻4年

〔開発日程〕
2025年
2月5日 オリエンテーション
2月22日 デザイン案提案
2月27日 1案に決定
4月13日 最終データ確認
4月22日 市長報告 ポスター等
データ作成へ
9月13日 金沢 JAZZSTREET 開催

金沢マラソンのメインビジュアルは、2025年より5年ぶりに刷新された。新たなロゴマークおよびメインビジュアルでは、城下町金沢を象徴する長町武家屋敷の土塀に見られるカーキ色を背景色として採用している。「金沢マラソン」の表記は日本語と英語を併記し、文字色は従来を踏襲し黄色と黒を用いた。メインビジュアルには、色や形の異なる多数のぬいぐるみをモチーフとして配置し、多様性を表現している。また、各種媒体や関連アイテムへの展開を想定し、グラフィックエレメントの設計にも工夫を施している。

本プロジェクトのアートディレクションは、本学の卒業生である福岡南央子氏に依頼した。

地域にゆかりのあるデザイナーと連携することで、金沢の文化的背景や地域性を踏まえたビジュアル開発が実現している。本取り組みは、大学と地域事業との連携を基盤とし、卒業生の専門性を地域社会へ還元する機会の創出にもつながっている。今後は、金沢市と本学との協働体制のもと、5年間にわたり金沢マラソンのアートディレクションを継続していく予定である。



メインビジュアル



マラソンスタートデザイン



マラソンゴールデザイン



スタッフ着用アイテムデザイン

〔委託者名〕
金沢マラソン組織委員会

〔期間〕
2024年9月～2025年11月

〔研究体制〕
プロフェッショナル型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔協力〕
株式会社ウーレン 福岡 南央子

〔開発日程〕
2024年
9月9日 オリエンテーション
10月27日 金沢マラソン2024視察、
デザイン案検討開始

2025年
1月17日 市長プレゼンテーション
メインビジュアルデザイン
決定、その他アイテム
デザイン開始
2月12日
2月25日 メインビジュアルデザイン
等記者発表

4月11日 金沢マラソン関連取材、
関連アイテムデザイン制作
10月26日 金沢マラソン開催

金沢市役所本庁舎前広場サイネージのLED化に伴い金沢市広報戦略課（旧広報広聴課）の依頼を受け、高輝度特性を持つサイネージの映像特性と規格（1280 x 384pic、10:3）に合わせた映像作品『金澤絵巻』を企画・制作するとともに、金沢美術工芸大学学生映像作品（油画専攻映像表現コース及び大学院映像コース）7点を選出し再編集・映像データ形式の調整を行い放映用のコンテンツとして整備した。全体の統括をホリスティックデザイン専攻寺井教授が担当し、本学映像コースの鈴木教授が『金澤絵巻』の撮影・編集・監督、学生作品の選出とデータ調整等のディレクション全般を担当した。同コース武田准教授、早見講師は専門性を活かしたシーンに演者として協力するとともに

に学生指導を補助した。また非常勤実習助手の名和田（映像）、朝倉（ホリスティックデザイン）、乙部（日本画）、沖田（油画）はそれぞれ編集補助、撮影補助と演者として協力した。『金澤絵巻』ではアニメーションパートにおいて本学油画専攻在学（2年次生、4年次生、各1名）らが制作に協力した。また、同作ではアーツカウンシル金沢に登録する本学出身の美術作家（舘田美玖、桜井旭）や同団体に登録する音楽家の筒井裕朗氏の出演及び作曲・演奏の面で協力を得た。3分10秒の作品は2026年3月25日から2年間、サイネージ上で放映されることになっており、金沢市YouTubeチャンネルでも配信されることが決まっている。



完成したLEDサイネージで放映された学生作品と制作した学生



『金澤絵巻』アニメーションパート



『金澤絵巻』実写パート



『金澤絵巻』エンドクレジット



3月24日LEDサイネージ用映像『金澤絵巻』および学生作品お披露目、市長表敬訪問の様子

〔委託者名〕 金沢市広報戦略課	〔参加学生〕 『金澤絵巻』アニメーション制作 高雄 芳野 油画専攻4年 架谷 七海 油画専攻2年	〔開発日程〕 2023年 1月18日 意見交換 2024年 10月7日 市担当者打合せ＊広報広聴課 2025年 2月28日 『金澤絵巻』企画書作成 5月30日 市担当者打合せ＊広報戦略課 6月14日 第1回出演・制作者打合せ 6月16日 第2回出演・制作者打合せ 7月7,11,13日 桜井旭出演シーン撮影 7月9日 サイネージ仕様決定 8月1日 早見紗也佳（油画）出演シーン撮影	9月27日 乙部出演シーン撮影 10月4日 武田雄介（油画）出演シーン撮影 10月4日 沖田出演シーン撮影 2026年 1月14日 舘田美玖氏アニメーション動画撮影（金沢美術工芸大学） 1月20日 筒井裕朗氏サクソフォン演奏録音（金沢市俵町スタジオ） 2月 編集 2月18日 改修後のLEDサイネージにて試写 3月 『金澤絵巻』作品データ調整 3月21日 完成データ引き渡し
〔期間〕 2025年4月～2026年3月	〔修了制作・卒業制作〕 米田 麻衣 大学院 絵画専攻2025年修了 武 之嵐 大学院 絵画専攻研究生 秋山 友海 大学院 絵画専攻2年 鄭 伊航 大学院 絵画専攻2年 岩崎 天音 油画専攻4年 立道 柚羽 油画専攻4年 長沖 純 油画専攻4年		
〔研究体制〕 プロジェクト型			
〔担当教員〕 寺井 剛敏 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻 鈴木 浩之 教授 美術科 油画専攻			

今年で第11回となる金沢マラソン2025において、完走者に配布される記念メダルのデザインをインダストリアルデザイン専攻の学生が手がけた。今年度から大会全体のアートディレクションにwoolen 福岡氏が就任し、大会キャッチコピーを「金沢を、みんなで、走り抜け」と謳い、ランナーの多様性を強調するディレクションが打ち出されている。メダルのデザインも新しい方向性にふさわしい表現を模索すべく、12名の学生がそれぞれデザイン案を提出した。選考を経て最終案として採用されたのは「目」をフィーチャーすることで大会のメインビジュアルで採用されているキャラクターを想起させ、親しみやすく温かい雰囲気

を持った児玉案となった。また最終選考に残った西木場、南野、前川案については、オンラインマラソンのバーチャルメダルとして参加者に配信された。大会当日である2025年10月26日には、全国各地および海外から参加したランナーのうち14,784名の完走者がこのメダルを受け取ることとなった。



提出アイデア



児玉さんによる市長への完成報告



大会当日のメダル配布の様子



オンライン大会のバーチャルメダル3種

〔委託者名〕 金沢マラソン組織委員会	〔参加学生〕 吾妻 愛太郎 インダストリアルデザイン専攻3年 太田 聖華 インダストリアルデザイン専攻3年 児玉 結音 インダストリアルデザイン専攻3年 田村 侃 インダストリアルデザイン専攻3年 南野 結 インダストリアルデザイン専攻3年 西木場 友希 インダストリアルデザイン専攻3年 前川 楓果 インダストリアルデザイン専攻3年 松尾 一輝 インダストリアルデザイン専攻3年 見神 隆之介 インダストリアルデザイン専攻3年 道林 南美 インダストリアルデザイン専攻3年 森 頌真 インダストリアルデザイン専攻3年 安田 和平 インダストリアルデザイン専攻3年	〔開発日程〕 2025年 4月14日 オリエンテーション 4月30日 概要、デザイン条件等説明 5月31日 アイデアミーティング 6月4日 採用案決定 7月3日 量産立体データ出図 8月5日 量産サンプル確認 8月6日 バーチャルメダルデータ提出 10月14日 市長へのメダル完成報告・記者発表 10月26日 マラソン大会開催 14,784人の完走者に配布
〔期間〕 2025年4月～2026年3月		
〔研究体制〕 プロジェクト型		
〔担当教員〕 矢島 幹生 准教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻		

ー昨年、昨年に引き続き、本年度も金沢市子育て支援課が主催する第42回児童館フェスティバル（於：金沢市民芸術村）の一環として、ドラマ工房で、学生団体「ワークショップ部ちきゅう」のメンバーが子供達を対象にワークショップを開催した。このフェスティバルでは毎年、金沢市の複数の児童館の、子供たちの日ごろの成果発表が行われたり、児童館厚生員によるワークショップが開かれたりしている。

本学からは、「暗闇の中でペイント 光る惑星をつくろう」と題して、宇宙をテーマに、30分ごとに変化する明るい空間（昼の時間）、暗い空間（夜の時間）ごとに異なるワークショップを開催した。



暗い時間帯になり、床一面に敷かれた紙に蛍光塗料で絵を描く子供たち

明るい時間帯では、子供たちはアルミ皿や紙皿にシールなどの飾りを貼ったり絵を描いたりして自分だけのオリジナル宇宙船を作り、暗い時間帯になると、蛍光塗料やシールで装飾された宇宙船が光る様子を楽しんだり、床一面に広げられた大きな台紙に蛍光塗料を用いて宇宙人や星、好きな動物などの絵を描き、一つの大きな惑星を作り上げた。また、光る大型のボールも用意し、特に小さな子供たちが遊ぶ姿も見られた。

1日のみの開催となったが、500名以上の子どもたちと保護者が来場し、多くの参加者で賑わった。



会場入口



子供たちが作ったオリジナルの宇宙船



明るい時間帯に宇宙船を工作する学生と子供たち



ワークショップ部ちきゅうのメンバー

〔委託者名〕
金沢市子育て支援課

〔期間〕
2025年5月～10月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
桑村 佐和子 教授 一般教育等

〔参加学生〕
岩城 柚 ホリスティックデザイン専攻1年
太田 結月 ホリスティックデザイン専攻1年
杉本 紬 インダストリアルデザイン専攻2年
渡辺 美咲 インダストリアルデザイン専攻1年
三原 初子 芸術学専攻2年
神吉 なつみ 芸術学専攻1年
木下 日七乃 芸術学専攻1年
尾松 春妃 彫刻専攻2年

〔開発日程〕
2025年
5月21日 子育て支援課からの依頼
7月15日 ドラマ工房＋子育て支援課との打ち合わせ
9月17日 ドラマ工房での下見＋子育て支援課との打ち合わせ
10月11日 ワークショップ準備
10月12日 児童館フェスティバル（当日）

金沢市からの依頼を受け、街に設置された看板に着目し、歴史的側面、伝統的な素材・技法・意匠の観点から検証し、景観形成に貢献するためのアイデアおよび具体的な展開を含めた事業計画を進めた。

昨年度に引き続き、9名のホリスティックデザイン学生がプロジェクトに参加し、現地調査や取材を通して、多角的な分析と提案をおこなった。

2025年秋には、金沢市の景観を考える新たなオンラインプラットフォーム「美板（びばん）」を公開した。看板は広告媒体であると同時に、まちの表情や文化を映し出す重要な要素でもある。「美板」では、学生が独自の視点で取材した看板をアーカイブし、景観の質を高める事例として公開することで、景観都市としての金沢市の魅力向上を目指した。



ミーティングの様子



東山方面への取材の様子



報告会の様子

〔委託者名〕
金沢市景観政策課

〔期間〕
2025年4月～2026年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
坂野 徹 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
石神 結奈 ホリスティックデザイン専攻3年
上野 香絵 ホリスティックデザイン専攻3年
大竹 恵祐 ホリスティックデザイン専攻3年
柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻3年
辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻3年
橋原 栄見 ホリスティックデザイン専攻3年
橋元 風香 ホリスティックデザイン専攻3年
治部 晶 ホリスティックデザイン専攻3年
堀田 陽生 ホリスティックデザイン専攻3年

〔開発日程〕
2025年
4月6日 ミーティング
4月23日 講習会
6月4日 ミーティング
6月21日 取材
6月25日 ミーティング
7月8日 ミーティング
10月9日 ミーティング
10月10日 WEBサイト公開

ホスピタリティアート・プロジェクト（HAP）は、金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。プロジェクト第36回の企画となる光の回廊シリーズ15は、「生きもののザワザワ」と題し実施された。病院1階待合いホールに面した大ガラスに患者、医療者、本学学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、2009年に第1回企画が実施されて以来、本学・市立病院・金沢市のバランスの取れた連携のもと継続されており、病院関係者および



企画会議



学内での制作



病院での制作



光の回廊

〔委託者名〕 金沢市立病院	〔担当教員〕 三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター 岩崎 純 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター 〔協力〕 横川 善正 金沢美術工芸大学名誉教授 (HAP 顧問) 〔参加学生〕 <金沢美術工芸大学> 伊南 瑠音 大学院 絵画専攻 1年 畑中 みずき 大学院 絵画専攻 1年 小嶋 千晶 油画専攻 4年 浅野 菜月 油画専攻 2年 小田 萌乃 油画専攻 2年 田中 愛涼 油画専攻 2年 桒谷 七海 油画専攻 2年 北川 夏風 油画専攻 2年	黒地 桃香 油画専攻 2年 仲 美琴 油画専攻 2年 草場 萌 油画専攻 1年 松田 有加 芸術学専攻 3年 高橋 友香 芸術学専攻 2年 <金沢大学> 北川 有美子 大学院博士後期課程 2年 坪井 理美佳 融合学域 4年 〔開発日程〕 2025 年 6 月 11 日 HAP 説明会 第 1 回企画会議 7 月 11 日 第 2 回企画会議 (テーマ会議) 7 月 18 日 第 3 回企画会議 (図案持ち寄り、退出)	7 月 22 日～23 日 消耗品発注 8 月 7 日～9 日 大学での制作、下準備 作業足場設置 (業者委託) 8 月 23 日 9:45～17:00 市立病院での設営、制作 ガラス保護シート張り 替え、カラーセロハンに よる大ガラスの装飾開始 8 月 25 日 9:30～17:00 市立病院での制作 8 月 26 日 13:00～16:00 市立病院での制作 ワークショップを経て完成、 9 月 11 日まで展示 15:00～撤収 (セロハン・ガラス保護シート 剥がし、資材搬出)
------------------	--	---	---

周辺地域に受け入れられ、学術的視点からも全国的に注目されている。
大学での図案会議・下準備に始まり、病院内でのワークショップ・展示・撤収に至るまで、無事に終えることができた。このプロジェクトは医療環境におけるコミュニケーションのあり方を提示し、そこには通院・入院患者、医療関係者の日常に彩りと癒しの空間を創出している。

ホスピタリティアート・プロジェクト（HAP）は、金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。プロジェクトの一環であるホスピタルギャラリーは、アートが患者さんの治療と生活の質の改善を手助けし、病院が地域社会における身近な交流の場となることを目的として、2012 年度に第 1 回展が開催された。アンデパンダン形式（審査を経ずに誰もが自由に作品を出品できる）による本展は、周辺地域に根付いた活動として現在に至ってい



〔委託者名〕 金沢市立病院	〔参加学生〕 小嶋 千晶 日本画専攻 4 年 (第 14 回展ポスター制作)	看護部 5 東 矢澤 硬太 看護部 5 西 天日 更織 手術室 中野 茜 放射線室 安土 佳宏 検査室 海道 一恵 検査室 角野 忠昭 薬剤室 新谷 圭子 事務局 中宮 英範 事務局 後藤 敬仁 事務局 中川 大和
〔期間〕 2025 年 4 月 28 日～9 月 15 日	〔金沢市立病院 ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー〕 病院事業管理者 高田 重男 院長 松下 栄紀 医局 中西 清香 医局 河口 晶太郎 医局 石津 千裕 医局 講堂 桜 医局 湯浅 睦基 医局 橋本 実佳 看護部 中町 麻紀子 看護部 京道 美里緒 看護部 3 東 鳥本 哲司	〔市民アドバイザー〕 野川 勝紀 富地 晃裕 駒井 順子
〔研究体制〕 プロジェクト型	〔担当教員〕 三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター 岩崎 純 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター 〔協力〕 横川 善正 金沢美術工芸大学名誉教授 (HAP 顧問)	



会場設営



作品仕分け



会場風景



会場風景

〔開発日程〕 2025 年 4 月 28 日 第 1 回企画会議 5 月 28 日 第 2 回企画会議 6 月 9 日 第 3 回企画会議、チラシ、 DM 作成 7 月 1 日 展覧会ポスター配布、 HP 案内 8 月 1 日 開催案内 (報道関係、公 民館、FB、LINE)、展覧会 チラシ配布 8 月 18 日～22 日 作品搬入 9 月 12 日 ギャラリー設営 (17 時～) 9 月 13 日～15 日 ギャラリー開催 9 月 15 日 ギャラリー撤収、 作品返還 (15 時～)
--

本取り組みは、金沢市「地域力創造プロジェクト」の一環として、金沢市が中心となり、三菱電機及び金沢美術工芸大学と連携して実施したものである。金沢市では、学生がまちづくりに関わることによる地域の活性化と、活動を通じて地域に愛着を持つことを目的に、大学と連携した実践型授業を展開している。本授業においても、学生は金沢市の「未来共創計画」を踏まえながら実際に街へ出て、市民や関係者へのインタビューを行い、暮らしの中にある声から課題を見つけ出した。こうした活動を通じて、市民と行政の接点となる視点から課題を捉え直し、学生自身の気づきをもとに具体的な提案へとつなげていった点が特徴であ

る。なお、プロセス設計にあたっては三菱電機のデザイン思考開発プロセスを活用している。また、美術大学ならではの強みとして、アイデアを可視化し分かりやすく伝える力が発揮された。成果発表には関連部署の担当者が多数参加し、具体的な意見交換が行われるなど、市民と行政をつなぐ実践的な取り組みとなった。



「水恩祭」融雪に感謝し、冬に備える夏祭り



「おみやあるき」
観光のゴミ問題を楽しく解決する仕組み



「my 獅子」
加賀獅子の伝統を伝える加賀獅子クラフトキット



金沢市役所での最終成果発表会



金沢市役所 第二本庁舎での展示

[委託者名] 金沢市地域力再生課	
[期間] 2025 年 4 月～ 2026 年 2 月	
[研究体制] 授業導入型	
[担当教員] 入矢 真一 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	

[参加学生] 山口 雄人 大学院 デザイン専攻 1 年 吾妻 愛太郎 インダストリアルデザイン専攻 3 年 太田 聖華 インダストリアルデザイン専攻 3 年 大宮 立義 インダストリアルデザイン専攻 3 年 児玉 結音 インダストリアルデザイン専攻 3 年 田村 侃 インダストリアルデザイン専攻 3 年 東郷 荘太郎 インダストリアルデザイン専攻 3 年 中村 理人 インダストリアルデザイン専攻 3 年 南野 結 インダストリアルデザイン専攻 3 年 西木場 友希 インダストリアルデザイン専攻 3 年 前川 楓果 インダストリアルデザイン専攻 3 年 松尾 一輝 インダストリアルデザイン専攻 3 年 松尾 知門 インダストリアルデザイン専攻 3 年	
---	--

見神 隆之介 インダストリアルデザイン専攻 3 年 三澤 仁実 インダストリアルデザイン専攻 3 年 道林 南美 インダストリアルデザイン専攻 3 年 森 頌真 インダストリアルデザイン専攻 3 年 安田 和平 インダストリアルデザイン専攻 3 年 山内 はんな インダストリアルデザイン専攻 3 年 山下 一颯 インダストリアルデザイン専攻 3 年	
[開発日程] 2025 年 4 月～ 8 月 事前準備と産官学連携の調整 9 月～ 10 月 産官学キックオフ 事前リサーチ	

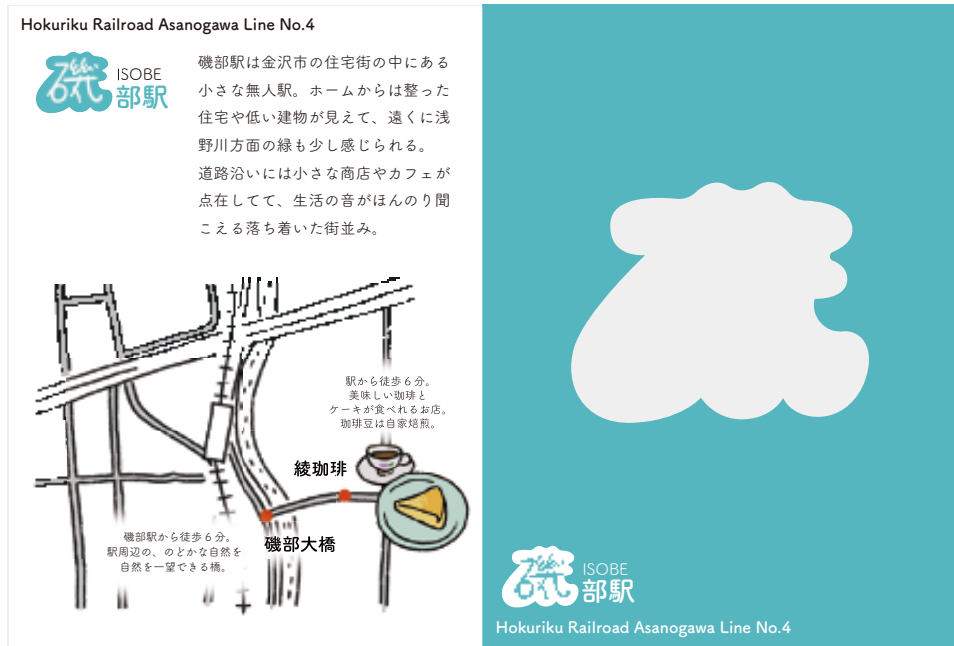
10 月 1 日	WS1 事前課題共有
10 月 16 日	WS2 気づきの抽出、 ペルソナ設定
10 月 24 日	WS3 問いの設定と アイデア展開
11 月 14 日	WS4 インタビューと プロトタイピング
11 月 28 日	WS5 最終プレゼンテー ション
2026 年 3 月 5 日	金沢市役所 成果発表会
3 月 5 日～ 28 日	金沢市役所第二本庁舎展示

金沢市と金沢美術工芸大学が連携し、公共交通利用促進のための PR 策を学生の視点で検討し、最終的にバス事業者および金沢市長へプレゼンテーションを行った。過度に自動車へ依存する状態から、公共交通や自転車利用への自主的な転換を促すことを目的とした取り組みである。

学生は、市内公共交通の利用体験に加え、富山市や福井市の事例調査を実施し、金沢市との違いや特徴を分析した。その結果、「雨の日を楽しくする」「バスにしかできないこと」「移動にプラスの価値を生み出す」の 3 つの方向性から提案を行った。窓の結露を活用した表現、飲み会の日のバス通勤を促す広告、車内限定

4 コマ漫画、駅周辺の魅力再発見カードなど、学生ならではの柔軟なアイデアは、バス事業者からも高い評価を得た。

また、行政や交通事業者と連携した実案件に取り組むことで、学生にとっては社会課題に対する実践的なデザイン経験を積む貴重な機会となった。



ローカスポットカード



市長プレゼンテーション



市役所＋北陸鉄道打合せ



市長プレゼンテーション質疑



富山・福井視察

[委託者名] 金沢市交通政策課	
[期間] 2025 年 5 月～ 12 月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 寺井 剛敏 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

[参加学生] 児玉 菜緒 大学院 視覚デザイン専攻 2 年 山下 尋 視覚デザイン専攻 4 年 吉田 明凜 視覚デザイン専攻 4 年 波多野 紗央 ホリスティックデザイン専攻 3 年 治部 晶 ホリスティックデザイン専攻 3 年 村上 愁 ホリスティックデザイン専攻 2 年	
---	--

[開発日程] 2025 年 5 月 29 日 オリエンテーション 6 月 23 日 学内ミーティング 6 月 30 日 金沢市内 試乗 7 月 2 日 金沢市内 試乗 8 月 6 日 市役所＋北陸鉄道 ヒアリング 9 月 5 日～ 6 日 富山・福井視察＋試乗 9 月 29 日 学内ミーティング 10 月 14 日 中間確認（市役所＋北鉄） 11 月 20 日 市長プレゼンテーション	
--	--

本プロジェクトは、金沢市が推進するスポーツ環境整備の一環として、金沢スタジアム周辺における来訪者の円滑な移動とイベントの魅力向上を目的に実施されたものである。イベント開催時には多くの来訪者が集中し、エリア全体での一体的な誘導計画が求められている。本事業では、金沢学院大学との役割分担のもとエリアを分けて検討を行い、金沢美術工芸大学は駐車場からスタジアムへ向かう動線を担当した。学生は来訪者が最初に体験する導入動線としての重要性を踏



最終デザインプレゼンテーション 01



最終デザインプレゼンテーション 02



最終デザインプレゼンテーション 03



スタジアム誘導シート

まえ、期待感を高めイベントを盛り上げる誘導サインのデザイン制作を行った。都市空間における課題解決とイベント価値の創出にデザインを活用するとともに、大学間連携を通じて学生の提案を社会実装へとつなげた実践的な教育・地域連携の取り組みである。



金沢スタジアム現地視察



アイデア方向性確認打ち合わせ 01



アイデア方向性確認打ち合わせ 02



現地検証

価値観の変容や食習慣を含めた生活様式の多様化が進む中、藩政時代から培われてきた金沢固有の食文化の継承および振興を図ることを目的とした。あわせて、市民が金沢の食文化に向き合う機会を提供するとともに、都市ブランド力のさらなる向上を図り、来街者に対して本市の食文化の魅力を発信することを目指した。

これらの取り組みの一環として、金沢市からの依頼を受け、イベントのロゴマーク等に関する全体デザイ

ロゴマーク
(上：食文化月間、下：おいしいフェスタ)

金沢駅前告知タペストリー



おいしいフェスタオープニング



おいしいフェスタ会場ツール

ンディレクションを行った。さらに、金沢の食文化の魅力発信を継続的に推進するため、次年度においても今回制作したロゴマーク等を活用した展開を継続して行うことが決定している。

〔委託者名〕
金沢市スポーツ振興課

〔期間〕
2025年4月～12月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
畝野 裕司 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
泉谷 寛次 ホリスティックデザイン専攻2年
栢田 優風 ホリスティックデザイン専攻2年
柴田 愛瑠 ホリスティックデザイン専攻2年
村上 愁 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2025年
5月26日 キックオフ打ち合わせ
5月29日 金沢スタジアム現地視察
6月9日 アイデア方向性確認
打ち合わせ
6月30日 中間デザイン
プレゼンテーション
7月15日 最終デザイン金沢市長へ
プレゼンテーション
8月8日 セカンドシーズン MTG
8月30日 現地でサイズや位置などを確認

〔委託者名〕
金沢市産業政策課

〔期間〕
2025年4月～12月

〔研究体制〕
プロフェッショナル型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔協力〕
デザケン 橋本 謙次郎

〔開発日程〕
2025年
4月14日 オリエンテーション
5月23日 ロゴマーク方向性提案、
修正作業など
7月8日 第1回実行委員会
ロゴマーク方向性決定
8月25日 第2回実行委員会
10月18日～19日 おいしいフェスタ開催
12月2日 第3回実行委員会
事業報告

金沢市では、旧東浅川小学校施設を活用し、森と市民をつなぐ拠点施設の整備を進めている。施設は「金沢もりづくりベース東浅川」と命名され、次のような機能を持つ。

- 幼児や小学生、ボランティアを対象とした木育・教育活動の実施
- 森林管理を希望する人と森林を使いたい人のマッチング
- 芸術家や地元の起業家等による木材の有効活用の支援
- 林業の担い手育成のための金沢林業大学の運営
- 森林・林業に関する情報発信

ロゴマーク制作においては、施設紹介を目的としたウェブや紙面での使用に加え、モニュメントや施設看板における使用に考慮した形となるよう検討を求められた。二次元だけでなく三次元の形としての利用が想



木を介して森と人、人と人をつなぐ

「森(もり)」を、「木(き)」と「木(き)」、「人(ひと)」と「人(ひと)」とが手を取り合い人が木・林・森との繋がりを感じられるよう横並びで配置しました。森林は「1種えて、2育てて、3切って、4使って、1また植えて・・・」という4つのサイクルを約50年という単位で何千年前から繰り返しています。また、この3つの「木(き)」には「川上・川中・川下」という思いも込めていますが、普段私たちが森林を身近に感じるのには木を使う(川下)の時です。他にも、森林には土砂崩れを防止するなど災害を防止する機能も持っています。このロゴマークを見たときに、金沢もりづくりベース東浅川を通じて森林にまつわる様々な情報を知り、木を使おう、森づくり活動に参加しよう、と思ってもらえれば嬉しいです。



岐阜県立森林文化アカデミー展示施設見学



岐阜県立森林文化アカデミー WS 施設見学



長野県林業総合センター森林学習展示館見学



長野県林業総合センター森林学習展示館利用体験



フラワーアート



フラワーアート完成



似顔絵ワークショップ



完成した似顔絵の引き渡し

〔委託者名〕

金沢市森林再生課

〔期間〕

2025 年 5 月～ 2026 年 2 月

〔研究体制〕

プロジェクト型

〔担当教員〕

鏑 隆弘 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕

門脇 春風 大学院 デザイン専攻 1 年
西田 有希 大学院 デザイン専攻 1 年
山根 里利佳 大学院 デザイン専攻 1 年
川口 真弥 ホリスティックデザイン専攻 3 年
柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻 3 年
橋元 風香 ホリスティックデザイン専攻 3 年

〔開発日程〕

2025 年
7 月 10 日 森林再生課と最初の会議
7 月 29 日 デザイン検討会
9 月 2 日～ 5 日 デザイン検討会
9 月 15 日～ 16 日 森林関係施設事例見学
10 月 15 日 中間プレゼンテーション
10 月 24 日 施設予定建物の見学
11 月 5 日 最終プレゼンテーション
12 月 25 日 採用案の選定

2026 年

2 月 24 日 施設設置サインの現地検討

〔委託者名〕

金沢市福祉政策課

〔期間〕

2025 年 7 月～ 2026 年 3 月

〔研究体制〕

プロジェクト型

〔担当教員〕

岩崎 純 教授 美術科 油画専攻

〔参加学生〕

沢田 歩乃花 油画専攻 2 年
田中 愛涼 油画専攻 2 年
仲 美琴 油画専攻 2 年
架谷 七海 油画専攻 2 年
前田 明香里 油画専攻 2 年

〔開発日程〕

2025 年
8 月 28 日 第 1 回 検討会
9 月 20 日 フラワーアート
9 月 24 日 クラシックコンサート
10 月 18 日 似顔絵と思い出の風景・宝物
10 月 28 日 第 2 回 検討会

2026 年
1 月 29 日 第 3 回 検討会
2 月 2 日 市長に提言書提出

シックコンサート」「似顔絵」の各プログラムを通じて、参加者が芸術に触れ、他者と交流することで、心身に安らぎや活力が生まれる場を創出した。

続く 10 月の第 2 回検討会では、これらモデル事業の実践報告を行い、現場での反応や運営上の課題を詳細に共有した。そして最終回となる第 3 回検討会において、一連の試行から得られた知見を集約し、金沢独自の文化的処方を地域に根付かせるための「提言書」の取りまとめを行った。

昨年度、木の文化都市・金沢の取り組みをシンボライズしたロゴマークを制作した経緯から、金沢市が推進する多様な取り組みの認知度向上及び機運醸成を図るためのwebサイト制作を依頼された。「継承と創出」これまでの歴史を受け継ぎながら、これからの文化を創り出していくというメッセージから、育てる、創る、使う・楽しむ、守る、学ぶという5つの視点で全体を構成し、木にまつわる31のキーワードなど、依頼された伝えたい内容を市役所側と調整しながら制作をおこなった。



〔委託者名〕
金沢市都市計画課

〔期間〕
2025年5月～2026年3月

〔研究体制〕
プロフェッショナル型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔協力〕
デザケン 橋本 謙次郎
Re:CODER 村田 裕章

〔開発日程〕

2025年	オリエンテーション
5月20日	市役所との打合せ
6月10日	グロウルメニューなど確認
6月26日	市役所との打合せ
7月7日	web方向性確認
8月～2月	撮影、打合せ、制作調整など
2026年	
3月末	納品

金沢市は、歩行者向け公的サインの再整備の一環で、市民や観光客が滞留する広坂交差点に、木製の特別な案内サインを設置する。このサインは、金沢が大切にしてきた本物志向や美意識を表現し、来訪者と市民が街とつながる新たな装置となることを目指している。同時に、「木の文化都市・金沢」の醸成を図る狙いがある。

こうした要請を受け、本学から市や金沢職人大学校へ連携を働きかけ、職人の技を活かした金沢らしいサインの在り方を追求した。伝統的建造物の修理実績が豊富な大工棟梁による技術的助言と、県外出身の学生による新鮮な観光客目線のアイデアを融合させ、手間

を惜しまぬ共創プロセスを推進。金沢特有の高低差や複雑な道を可視化する「継手」を用いた、立体的でユニークなデザインが導き出された。

本サインは、維持管理に手間はかかるが、伝統技術の継承や循環型の仕事を創出する象徴となる。今後は、これまでの検討で得られた意匠性や「継手」による部分交換などの維持管理性を踏まえ、令和8年度の設置に向けた実施設計へと取り組んでいく。



設置イメージ



茶室見学会



11月検討会



2月検討会



2月現地検討会

〔委託者名〕
金沢市景観政策課

〔期間〕
2025年9月～2026年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
北村 賢哉 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

西本 耕喜 准教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
山根 里利佳 大学院 デザイン専攻1年

〔開発日程〕

2025年	
8月21日	松涛庵にて金沢勉強会
10月21日	第1回合同検討会
11月20日	第2回合同検討会
12月9日	第3回合同検討会

2026年	
1月23日	第4回合同検討会
2月17日	第5回合同検討会
2月25日	現地にてデザイン確認会
3月	最終形状検討～決定

本プロジェクトは、金沢競馬場の各所に金沢美術工芸大学の学生が装飾を施し、施設の魅力を高めるとともに、来場者がより親しみを感じられる空間づくりを目指す地域連携事業である。令和8年度からの本格的な展開に向け、公共空間におけるアートの可能性を広げる試みとして始動した。

8月に実施されたデザイン選考会では、油画専攻8名、彫刻専攻4名の計12名が参加し、それぞれの専門性を活かした個性豊かなデザイン案を提示した。施設関係者らによる審査を経て、空間のシンボルとなる「大階段」のデザインをはじめ、屋外エリア（動物の森）に設置する「彫刻オブジェ」や、家族連れで楽しめる「顔出し

パネル」の計3案が採択された。さらに、次年度以降に設置予定のキッズコーナーや入口壁面の壁画デザインも決定しており、段階的なリニューアルが計画されている。

本取り組みを通じ、学生たちは自らの表現が社会の中で形になる過程で、技術的・公共的な課題に向き合う貴重な機会を得た。実社会との対話から得られた多角的な視点は、今後の創作活動における新たな糧となり、表現者としての成長を促す重要な契機となったといえる。



金沢競馬場視察



馬のオブジェ（型取り）



馬のオブジェ（塗装）



顔出しパネル設置

本プロジェクトでは、石川県が推進する「環境にやさしい農業」をより身近に届けるため、新たな表示ラベルを制作した。農業や化学肥料を抑える農家の情熱を「見える化」し、消費者が思わず手にとりたくなるような仕組みづくりを目指している。

数ある候補の中から、県の選定と一般投票を経て選ばれたのは、親しみやすさと信頼感が共存する「環境を守る農家さん」。若き感性によって、作り手の温かな想いがひと目で伝わるデザインに仕上がった。

行政の施策にデザインの感性を吹き込み、瑞々しいアイデアを実際の制度として社会へ送り出した本取り組みは、教育と地域が手を取り合って生み出した価値ある成果といえる。



検討案



アイデア方向性確認打ち合わせ 01



アイデア方向性確認打ち合わせ 02



最終デザインプレゼンテーション 01



最終デザインプレゼンテーション 02

〔委託者名〕	
石川県競馬事業局	
〔期間〕	
2025年4月～2026年3月	
〔研究体制〕	
プロジェクト型	
〔担当教員〕	
岩崎 純	教授 美術科 油画専攻
七瀬 綾乃	講師 美術科 彫刻専攻

〔参加学生〕	
浅野 菜月	油画専攻2年
北川 夏風	油画専攻2年
沢田 歩乃花	油画専攻2年
豊田 賛歌	油画専攻2年
架谷 七海	油画専攻2年
ひび井 一道	油画専攻2年
八木 美穂	油画専攻2年
草場 萌	油画専攻1年
今井 佑莉	彫刻専攻1年
中村 一乃	彫刻専攻1年
東原 侑希子	彫刻専攻1年
宮澤 珠季	彫刻専攻1年

〔開発日程〕	
2025年	
6月6日	第1回プロジェクト会議
6月24日	第2回プロジェクト会議
7月28日	アイデアスケッチ提出
7月30日	プレゼンテーション
8月1日	選考会議
8月4日	制作開始
9月18日	大階段アート設置
2026年	
3月7日	オブジェ、顔出しパネル設置

〔委託者名〕	
石川県生産振興課	
〔期間〕	
2025年4月～2026年3月	
〔研究体制〕	
プロジェクト型	
〔担当教員〕	
畠野 裕司	教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕	
安部 涼香	ホリスティックデザイン専攻3年
岡田 優花	ホリスティックデザイン専攻3年
辻ノ上 真綾	ホリスティックデザイン専攻3年
山崎 陽葵	ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕	
2025年	
6月25日	キックオフ打ち合わせ
7月18日	アイデア方向性確認打ち合わせ
8月18日	中間デザインプレゼンテーション
8月29日	最終デザインプレゼンテーション
11月11日	最終データ提出
11月20日～12月4日	一般投票（5案）

2026年	
1月9日	環境保全型農業の新たなラベルが決定
3月31日	決定ロゴマーク・ブラッシュアップ、デザインマニュアル完成

本事業は、いしかわ県民文化振興基金からの委託を受け、本学学生が中心となってキュレーションおよびワークショップの企画・運営を担当したものである。会期は2026年1月27日～2月4日、会場は石川県政記念しいのき迎賓館ギャラリーAにて実施した。

学生は、事前のサーチとして県内の福祉施設やアーティストのアトリエ訪問を重ねた。その成果をもとに、展示作品の選定・収集から、作品の魅力を伝える解説文の執筆、会場の設営作業までを一貫して行った。会期中には来場者向けのギャラリートークも分担して行い、自らの言葉で作品の背景を伝えた。

また、関連企画として1月31日～2月1日にかけ、

同館1階プラザにてワークショップを実施した。学生10名が運営に携わり、会場の窓ガラスをカラーフィルムで装飾する空間演出を試みた。公共空間を色彩で彩るこの取り組みは、来場者との交流を促すとともに、展示空間への導入としても大きな役割を果たした。一連のプロセスを通じ、学生は専門的な知見を地域文化の振興に活かすとともに、障害者アートに対する理解を深める貴重な実践の場を得ることができた。



アトリエ（施設）訪問



ギャラリートークの様子



切り絵ワークショップ



完成（しいのき迎賓館 窓ガラス）

〔委託者名〕		
公益財団法人いしかわ県民文化振興基金		
〔期間〕		
2025年4月～2026年3月		
〔研究体制〕		
プロジェクト型		
〔担当教員〕		
岩崎 純	教授	美術科 油画専攻

〔参加学生〕		
藤本 あり	油画専攻 3年	
浦野 朝羽	油画専攻 2年	
片山 梨華子	油画専攻 2年	
沢田 歩乃花	油画専攻 2年	
仲 美琴	油画専攻 2年	
前田 明香里	油画専攻 2年	
永井 咲楽	油画専攻 1年	
草場 萌	油画専攻 1年	
古閑 真依	油画専攻 1年	
松田 有加	芸術学専攻 3年	
高橋 友香	芸術学専攻 2年	

〔開発日程〕		
2025年		
7月29日	第1回 学生合同会議	
9月～11月	施設・アトリエ訪問	
11月5日	ワークショップ会議	
12月2日	第1回レイアウト検討会	
12月16日	第2回レイアウト検討会	
12月16日	進捗確認会議	
2026年		
1月19日	最終打ち合わせ	
1月26日	搬入・展示作業	
1月31日	ギャラリートーク	
1月31日～2月1日	ワークショップ	

「石川県地域コミュニティ再建事業」は石川県が進める復興事業である。発災後、継続的に各市町を訪問し、日々の見守り・相談対応を行っている方々からの意見を聞いて、それらから被災者が集うきっかけとなる「支援メニュー」を作り出した。それを元に、県内ではこれまでに2,000回ほどのイベント・ワークショップ・寄り合いを行っている。この事業の記録映像を制作するために、約30日間その事業に同行し撮影を行った。動画コンセプトやロゴマークをはじめ、全編の編集も行った。インタビューなどを通して「被災者の今」をそのまま伝えることを目指して制作した。



動画で使われている画像



ふるさとバス@能登町
イカモールで記念撮影の様子



ふるさとバス@能登町インタビューの様子



山西さん動画編集



動画用グラフィックデータ

〔委託者名〕	
日本エージェンシー （石川県生活再建支援課）	
〔期間〕	
2025年7月～2026年3月	
〔研究体制〕	
プロジェクト型	
〔担当教員〕	
河崎 圭吾	教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻

〔参加学生〕	
山西 優心	製品デザイン専攻 4年
東郷 莊太郎	インダストリアルデザイン専攻 3年
寺山 映人	インダストリアルデザイン専攻 2年

〔開発日程〕	
2025年	
5月27日	会議①概要と要望のヒアリングと予算について
7月1日	会議②イベントメニュー紹介と撮影日程調整
7月16日	会議③動画のイメージのすり合わせ
8月12日	会議④動画のタイトル/コンセプト/ナレーション検討
9月16日	会議⑤追加で各市町にフォーカスした動画も撮影

10月20日	会議⑥「石川ひとつなぎ」のロゴマーク4案を提案
11月18日	会議⑦動画とロゴとグラフィックの確認
2026年	
1月6日	会議⑧動画の視聴とクレジットについて
2月19日	最終動画を納品
2月21日	動画公開

能登絶景街道（能登半島絶景海道）は、石川県が推進する広域観光ルートであり、能登半島の海岸線を中心に景観・文化・観光資源を結び、回遊性の高い体験を創出する「風景型インフラ」である。観光振興に加え、令和6年能登半島地震後の復興を担う重要なプロジェクトとして位置付けられている。本街道のシンボルマークは、金沢美術工芸大学の学生がデザインを担当し、専門家の選定と一般投票を経て決定された。「ぐるっと感動、まるごと能登！」をコンセプトに、半島全体の一体感と周遊性を表現している。

本事例は、地域ブランディングと復興施策にデザインを活用するとともに、学生の制作が社会実装された先進的な取り組みである。



〔委託者名〕
能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

〔期間〕
2025年4月～2026年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
畠野 裕司 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
安部 涼香 ホリスティックデザイン専攻3年
岡田 優花 ホリスティックデザイン専攻3年
辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻3年
山崎 陽葵 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕

2025年	2026年
6月25日	キックオフ打ち合わせ
6月29日	能登絶景海道視察
7月11日	アイデア方向性確認打ち合わせ
8月6日	中間デザインプレゼンテーション
9月10日～9月19日	一般投票（対象：5案）
10月1日	第4回能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会にてロゴマーク確定

昨年度に引き続き協同組合金沢問屋センターからの依頼を受けて、普段芸術に触れる機会が少ない問屋町の方々に「アート」を身近に感じる機会を作り、参加者にとっての新たな価値観や考え方を得ることができ、ワークショップ等を通して街の活性化につなげるための事業に参画することになった。本年度は新キャンパスでの工芸体験工房＆金沢美術工芸大学見学ツアーということで、これまでとは趣を変え大学の工房を活用した体験とした。ワークショップでは、陶磁は九谷焼絵皿作り、彫金鍛金ではアルミの皿作り、鋳金では子供の部は錫の皿作り、大人の部は錫のチャーム作り、染織は子供の部は虹色Tシャツ作り、大人の部はフェルトルームシューズ作りといった内容で実施した。講師は本学技術専門員4名が担当した。参加者は子供の部計18名大人の部計17名であった。また広報用のフライヤーについては工芸科学生2名がデザイン作成を担当した。

は子供の部は錫の皿作り、大人の部は錫のチャーム作り、染織は子供の部は虹色Tシャツ作り、大人の部はフェルトルームシューズ作りといった内容で実施した。講師は本学技術専門員4名が担当した。参加者は子供の部計18名大人の部計17名であった。また広報用のフライヤーについては工芸科学生2名がデザイン作成を担当した。



陶磁体験 九谷焼絵皿作り



彫金鍛金体験 アルミの皿作り



鋳金体験 錫のチャーム作り



染織体験 虹色Tシャツ作り



染織体験 フェルトルームシューズ作り

〔委託者名〕
協同組合金沢問屋センター

〔期間〕
2025年4月～10月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
足立 真実 教授 工芸科
宮永 春香 准教授 工芸科
今西 泰起 技術専門員
水野 美紅 技術専門員

岸 洸実 技術専門員
松居 美穂 技術専門員

〔参加学生〕
佐藤 綾乃 大学院 工芸専攻2年
小池 さくら 大学院 工芸専攻1年
杉谷 春海 工芸科4年
寺本 香乃花 工芸科4年
並木 舞花 工芸科4年
鈴木 秀和 工芸科3年
草場 風香 工芸科2年

〔開発日程〕

2025年	
4月8日	顔合わせ、ミーティング
6月16日	広報用チラシ問屋センターへの納品
8月10日	ワークショップ 午前 子供の部 午後 大人の部

8月21日から24日まで開催された「第38回 JAPANTENT ―世界留学生交流・いしかわ2025」において、参加者が着用するTシャツの基本デザインを、前回に引き続き制作した。今回のデザインは、ホリスティックデザイン専攻2年の西岡さんの案が採用された。デザインは、石川県の伝統工芸である水引を、国や文化を超えて人をつなぐ架け橋に見立て、世界中から集まった留学生と日本との出会いや交流の絆を表現したものとした。本デザインは、海外からの参加者やホストファミリーからも好評を得た。



学生がデザインしたTシャツ



来県した留学生



スタッフとの交流



4種類のデザイン

〔委託者名〕
JAPAN TENT 開催委員会

〔期間〕
2025年6月～9月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
大谷 周 大学院 デザイン専攻2年
西岡 千沙 ホリスティックデザイン専攻2年
神谷 門渡 ホリスティックデザイン専攻2年
山崎 陽葵 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2025年
6月6日 オリエンテーション
6月25日 学内確認
7月4日 デザイン案提案
7月12日 デザイン案決定
8月21日 ジャパンテント開催

2024年1月の能登半島地震により、輪島市立図書館は甚大な被害を受け、現在も通常の図書館サービスは完全に復旧していない状況にある。本事業では、シャンティ国際ボランティア協会からの依頼により、被災地の市民に本との出会いを届ける移動図書館車両の外観デザインを受託した。油画専攻、芸術学専攻、インダストリアルデザイン専攻から9名9案のデザイン案を提出し、輪島の海と空をイメージし、大きく開いた本のイメージをあしらった山崎案を輪島市図書館、

シャンティとの協議の上で選択した。12月16日に輪島市図書館への目録贈呈が行われ、また3月10日からは完成した車両の運行がスタートし、輪島市内17箇所を周ることで輪島の新たな風景の一部となっている。



運用中の様子



輪島市の海と空をモチーフにし、風景に調和するデザイン



輪島市図書館への車両贈呈式



制作者の山崎さんがインタビューを受ける様子

〔委託者名〕
公益社団法人
シャンティ国際ボランティア協会

〔期間〕
2025年4月～12月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
矢島 幹生 准教授 デザイン科
インダストリアルデザイン専攻

〔参加学生〕
今井 るな インダストリアルデザイン専攻2年
佐藤 あすか インダストリアルデザイン専攻2年
端浦 拓巳 インダストリアルデザイン専攻2年
廣渡 桃華 インダストリアルデザイン専攻2年
三好 快知 インダストリアルデザイン専攻2年
山崎 ゆめ インダストリアルデザイン専攻2年
小嶋 千晶 油画専攻4年
高橋 菜々美 芸術学専攻3年
高橋 友香 芸術学専攻2年

〔開発日程〕
2025年
5月7日 コンセプト説明
6月18日 中間データ提出
7月30日 最終案提出
12月16日 輪島市図書館への車両贈呈式
2026年
3月10日 移動図書館車両の運行開始
3月11日 採用案担当学生のMRO取材対応

石川県輪島市では、震災を受けて元々 11 校あった小中学校がそれぞれ 3 校に統合されることになった。震災から 2 年、仮校舎での生活が終わり新しい学校として歩み始めるタイミングに合わせて新校章を子どもたちと一緒に考えることとした。夏休みの期間を利用してそれぞれ 2 回、合計 6 回のワークショップを開催し、全校生徒投票で校章を決定した。3 校が同時に誕生するという珍しい機会を活用し、輪島がさらに発展していくよう、3 校に関連性を持たせたデザインを提案した。



子供たちの輪島の思い出を絵と文字で描く



フィッシュボールで輪島の思い出を語る



[委託者名] 輪島市教育総務課	調査担当		[開発日程]		10 月 3 日	河合諸学校向けに
	今井 るな	インダストリアルデザイン専攻 2 年	2025 年			校章デザイン 3 案プレゼン
[期間] 2025 年 7 月～ 2026 年 3 月	王 美鳳	インダストリアルデザイン専攻 2 年	7 月 14 日	本学で平田課長より	11 月 13 日	東陽中学校で校章デザイン
	杉本 紬	インダストリアルデザイン専攻 2 年		概要説明を受ける		3 案プレゼン
[研究体制] プロジェクト型	鈴木 優花	インダストリアルデザイン専攻 2 年	7 月 31 日	ZOOM で 3 校の生徒と	12 月 5 日	投票結果 A 案に決定後
	三好 快知	インダストリアルデザイン専攻 2 年		保護者に向けてガイダンス		輪島市長に確認
[担当教員] 河崎 圭吾 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	村上 彩華	インダストリアルデザイン専攻 2 年	8 月 7 日	河井小学校で	12 月 25 日	木下部長より A 案の
	中川 泰志	インダストリアルデザイン専攻 2 年		第 1 回ワークショップ開催		再検討依頼
[参加学生] ディレクション&デザイン担当 山西 優心 製品デザイン専攻 4 年	尾崎 功明	インダストリアルデザイン専攻 2 年	8 月 8 日	東陽中学校、門前中学校で	2026 年	
	加治屋 紺運	インダストリアルデザイン専攻 2 年		第 1 回ワークショップ開催	1 月 14 日	輪島市役所にて
デザイン担当 山崎 ゆめ インダストリアルデザイン専攻 2 年 廣渡 桃華 インダストリアルデザイン専攻 2 年	田中 美優	インダストリアルデザイン専攻 2 年	8 月 28 日	河井小学校で第 2 回	1 月 26 日	最終プレゼンテーション
	辻村 大介	インダストリアルデザイン専攻 2 年		ワークショップ開催		最終デザイン決定後
	殿木 創	インダストリアルデザイン専攻 2 年	8 月 29 日	東陽中学校、門前中学校で	1 月 30 日	校旗デザイン提出
	西田 彩乃	インダストリアルデザイン専攻 2 年		第 2 回ワークショップ開催	2 月 20 日	デザイン記者発表
	能登 元大	インダストリアルデザイン専攻 2 年				校章のカラーデザインの
	吉田 莉彩	インダストリアルデザイン専攻 2 年				検討の依頼を受ける
	渡辺 美咲	インダストリアルデザイン専攻 2 年	10 月 1 日	門前中学校で校章デザイン		
				3 案プレゼン		

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37			
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54			
55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71			
72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88			
89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104				
105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117							
118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130							
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143							
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156							
157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169							
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182							
183																			

産 学 連 携 事 業

184	「プライドポテト JAPAN 日本の神業 金沢の甘えび」の パッケージデザイン制作	34
185	金沢の街に魅力を生む「街の道具」をデザイン	35
186	シン・トランスフォーメーション	36
187	シン・トランスフォーメーション	37
188	冬季イルミネーションの空間演出計画	38
189	株式会社さくら Com 新社屋壁面アートのデザイン及び制作	39
190	「開けるワクワクをデザインするお菓子のパッケージ」 ー ワクワクする“開封体験”をデザインする ー	40
191	地域課題の解決に向けたアイデア創出「未来を拓く文化都市・金沢をつくる」	41
192	海洋プラスチック問題にみんなで向き合うきっかけをつくるデザイン	42
193	金沢駅観光情報センター展示コーナーにおける工芸の魅力発信事業	43
194	「めがね」をイメージする建造物のデザイン研究	44
195	東北レインボーハウスワークショップのデザイン作成	45
196	木製パネルを用いた新たな空間体験づくり	46
197	KINTA CHANPIONSHIP 賞典デザイン制作	47
198	歯科診療車外観デザイン	48

株式会社湖池屋の「プライドポテト 日本の神業」シリーズより「金沢の甘えび」味が発売されるにあたり、昨年に引き続き5回目となる本プロジェクトとして、金沢美術工芸大学の学生にパッケージデザインの提案依頼があった。これは、金沢を盛り上げる共同プロジェクトとして実施した。今回のリニューアルでは、金沢を代表する甘えびの風味をより感じられる味へと進化した。デザイン案は最終的に6案に絞り、金沢市内の小学生や市民、全国からの投票による総選挙を実施した。その結果、約29,000通の投票を

もとに、ホリスティックデザイン専攻3年の大竹さん、山田さんの2案を採用し、全国発売を決定した。また、売上の一部は金沢美術工芸大学、金沢市および能登震災復興のために寄付された。本プロジェクトは好評を博し、次年度も継続が決定している。本取り組みを通じて、学生は企業や地域と連携した実案件に携わり、学内の課題では得られない実践的なデザイン経験を積む機会となった。



本学にて記者発表



デザインが採用された学生



オリエンテーション



湖池屋本社での研修

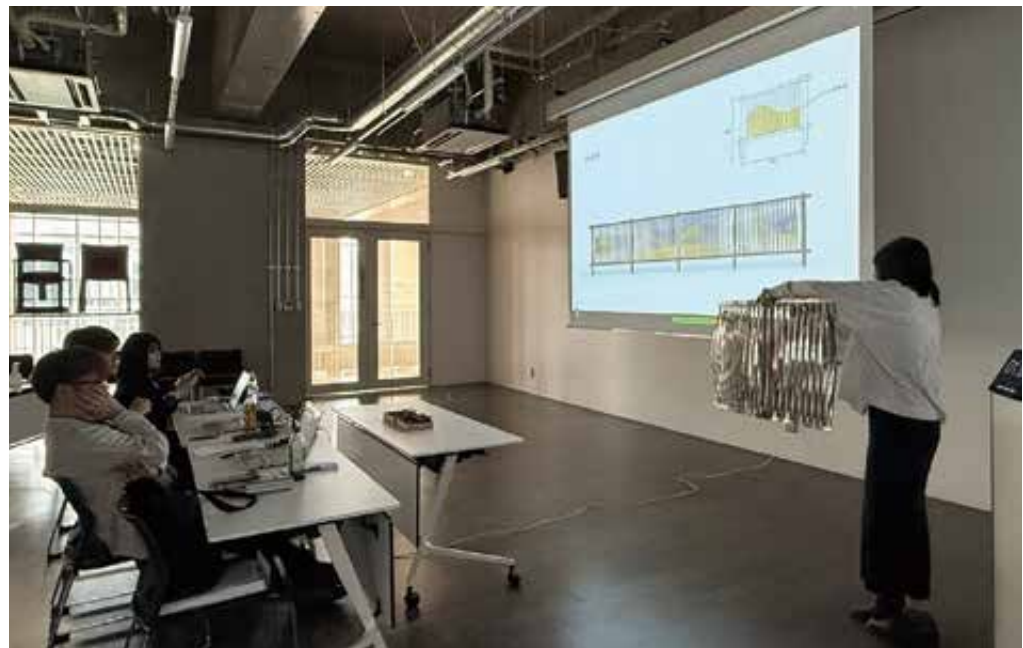
[委託者名]	
株式会社湖池屋	
[期間]	
2025年1月～11月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

[参加学生]		波多野 紗央		ホリスティックデザイン専攻3年	3月21日	デザイン案提出
大竹 恵祐	ホリスティックデザイン専攻3年	水島 夏鈴	ホリスティックデザイン専攻3年			23名より35案
山田 陽菜	ホリスティックデザイン専攻3年	小林 紗和	ホリスティックデザイン専攻2年		4月3日	1次選考で11名へ
安倍 涼香	ホリスティックデザイン専攻3年	瀧 瑞歩	ホリスティックデザイン専攻2年		5月23日	総選挙6案絞り込み
石木 双葉	ホリスティックデザイン専攻3年	山崎 陽葵	ホリスティックデザイン専攻2年		6月24日	2案決定
石神 結奈	ホリスティックデザイン専攻3年	加藤 優月	ホリスティックデザイン専攻2年			デザイン調整作業へ
河原 英美	ホリスティックデザイン専攻3年	服部 憲二	ホリスティックデザイン専攻2年		9月19日～20日	
橋元 風香	ホリスティックデザイン専攻3年	栢田 優風	ホリスティックデザイン専攻2年			採用学生、湖池屋本社訪問
間地 春水	ホリスティックデザイン専攻3年	松田 凜	ホリスティックデザイン専攻2年		11月3日	金沢美術工芸大学にて
出雲 涼菜	ホリスティックデザイン専攻3年	渡部 妙子	ホリスティックデザイン専攻2年			記者発表
加藤 靖葉	ホリスティックデザイン専攻3年				11月10日	全国コンビニ、スーパー
柴谷 実侑	ホリスティックデザイン専攻3年	[開発日程]				マーケット、ドラッグス
滝田 妃愛	ホリスティックデザイン専攻3年	2025年				トアなど一般店発売
辻ノ上 真綾	ホリスティックデザイン専攻3年	1月31日		オリエンテーション		

道路インフラの最前線进行積水樹脂株式会社と共に、金沢の街路や公共空間を魅力的に変える「街の道具」のデザインを提案するプロジェクトである。日常生活において何気なく利用する空間を学生独自の目線で観察して課題を導き出し、魅力的な場とするために必要なプロダクト、空間演出、サービスの在り方を追求することを目的としている。

プロジェクトは事前ワークによる金沢の街への関心事項や課題の抽出から始まり、街のサインや屋外広告、

街の道具（ファニチャー）、イベントといった具体的な要素に着目した。現場調査とプロトタイピングによる試行錯誤を繰り返すことで、表層的なアイデアを本質的な提案へと深化させ、中間検討会での企業デザイナーとの対話を重ねることで、具体的かつ実践的な提案へと導き出した。



最終発表



オリエンテーション



中間発表



グループワーク



メンバー

[委託者名]	
積水樹脂株式会社	
[期間]	
2025年4月～2026年3月	
[研究体制]	
授業導入型	
[担当教員]	
北村 賢哉 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

[参加学生]		三代 壮良	ホリスティックデザイン専攻3年
児玉 菜緒	大学院 デザイン専攻2年	山田 陽菜	ホリスティックデザイン専攻3年
門脇 春風	大学院 デザイン専攻1年	[開発日程]	
石木 双葉	ホリスティックデザイン専攻3年	2025年	
出雲 涼菜	ホリスティックデザイン専攻3年	4月11日	オリエンテーション
上野 香絵	ホリスティックデザイン専攻3年	4月16日	グループワーク発表
大竹 恵祐	ホリスティックデザイン専攻3年	4月24日	中間検討会
岡田 優花	ホリスティックデザイン専攻3年	5月9日	最終発表会
加藤 靖葉	ホリスティックデザイン専攻3年		
菅野 なな江	ホリスティックデザイン専攻3年		
柴谷 実侑	ホリスティックデザイン専攻3年		
橋原 栄見	ホリスティックデザイン専攻3年		
橋元 風香	ホリスティックデザイン専攻3年		
治部 晶	ホリスティックデザイン専攻3年		

2020 年から行っているスカパー JSAT との共同研究である。新型コロナウイルスによるパンデミック、そしてロシアによるウクライナ侵攻という二つの大きな外的要因が世界を大きく揺るがした。これにより、グローバルなサプライチェーンは崩れ、「当たり前」が通用しない時代を私たちは経験している。加えて生成 AI の劇的な進化により 21 世紀の産業革命が生まれようとしている。時代の大きな変革を迎えている今、私たちは単に " 変わるだけではなくあらゆる事に対して意味を問い直し、新しい価値を創り直す " ことが求められている。では、どのように社会や産業を再構築し、学生たちの創造性を未来につなげることがで



AXIS ギャラリー展示オープニングイベントで学生による公開プレゼンテーション



学生による各ブースでのセッション



展示会場で記念写真



森頒真さんの展示物



展示会場受付の様子

[委託者名]	
スカパー JSAT 株式会社	
[期間]	
2025 年 4 月～2026 年 3 月	
[研究体制]	
授業導入型	
[担当教員]	
河崎 圭吾 教授	デザイン科 インダストリアルデザイン専攻
入矢 真一 教授	デザイン科 インダストリアルデザイン専攻

[参加学生]		[開発日程]		5 月 30 日	バナーと冊子データ FIX
児玉 結音	インダストリアルデザイン専攻 3 年	2025 年		6 月 6 日	プレゼンリハーサル
田村 侃	インダストリアルデザイン専攻 3 年	3 月 6 日	ZOOM ガイダンス	6 月 10 日	最終プレゼンテーション
東郷 荘太郎	インダストリアルデザイン専攻 3 年	3 月 10 日	テーマ決定	9 月 26 日～28 日	
南野 結	インダストリアルデザイン専攻 3 年	3 月 20 日～25 日		AXIS ギャラリーで展示	
松尾 知門	インダストリアルデザイン専攻 3 年				
見神 隆之介	インダストリアルデザイン専攻 3 年	4 月 4 日	ZOOM で事前課題発表		
三澤 仁実	インダストリアルデザイン専攻 3 年	4 月 11 日	白山ろく民族資料館訪問		
道林 南美	インダストリアルデザイン専攻 3 年	4 月 18 日	コンセプトチェック		
森 頌真	インダストリアルデザイン専攻 3 年	4 月 23 日	コンセプトチェック		
		5 月 7 日	コンセプト&ストーリー FIX		
		5 月 14 日	UX 制作 FIX		
		5 月 21 日	プロダクトデザイン FIX		

きるのか？第6回目の Visionary Thinking のテーマは、「シン・トランスフォーメーション」である。この研究にはインダストリアルデザイン専攻 3 年生 9 名が参加した。AXIS ギャラリーでの展示会は 9 月 26 日（金）～28 日（日）で開催した。オープニングイベントでは、本学名誉客員教授でジャーナリストの林信行先生による基調講演「AI の今とこれから」を行い、その後学生による公開プレゼンテーションを行った。

インダストリアルデザイン専攻 3 年生では「Visionary Thinking」と題し、未来の社会のあるべき姿を構想し、そこで必要になるデザインを考える授業を展開している。今年度は 12 名の学生がスズキ株式会社と共同で移動の未来を考えた。スズキからは 2 名のデザイナーをメンターとして迎え、プロの視点からのアドバイスを直接受ける体制となっており、授業期間の 2 ヶ月間と授業後の展示に向けた準備を通じ、大きく成長する機会となっている。

今年度の授業テーマは「シン・トランスフォーメーション」とし、DX（デジタルトランスフォーメーション）、PX（フィジカルトランスフォーメーション）が



AXIS ギャラリーでのプレゼンテーション



スズキ本社訪問・スズキ歴史館見学



客員教授和田智氏へのプレゼンテーション



最終レンダリング



AXIS ギャラリーでの展示風景

[委託者名]		[参加学生]		メンター 矢島 幹生		4 月 21 日	長田典子講義 & ワークショップ
スズキ株式会社		メンター 結城 康和	スズキ株式会社	リーダー 山下 一颯	インダストリアルデザイン専攻 3 年		
[期間]		リーダー 吾妻 愛太郎	インダストリアルデザイン専攻 3 年	山口 雄人		4 月 25 日	コンセプト決定
2025 年 4 月～12 月		大宮 立義		西木場 友希		チェック会	
[研究体制]		松尾 一輝		太田 聖華		5 月 7 日	オンラインチェック・デザイン方向性決定
授業導入型		前川 楓果		[開発日程]		5 月 8 日	CMF 講習会
[担当教員]		メンター 入手 由貴		2025 年		5 月 15 日	客員教授和田智講義
矢島 幹生 准教授	デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	リーダー 安田 和平	インダストリアルデザイン専攻 3 年	3 月 1 日	ガイダンス 事前課題	5 月 22 日	デザイン最終確認
		青木 智志		4 月 4 日	スズキ本社訪問	5 月 27 日	渡邊恵太講義
		中村 理人		4 月 10 日	コンセプトチェック会	6 月 7 日	最終プレゼンテーション
		山内 はんな		4 月 11 日	白山ろく民族資料館視察	9 月 26 日～28 日	AXIS ギャラリー展示
				4 月 14 日	越野亮講義	11 月 1 日～3 日	美大祭期間中展示
				4 月 18 日	中間オンラインチェック・アイデア確定		

進む近未来において「実体を移動させる価値とは何か」をそれぞれの問いとして立てた。学生は自らの経験と未来の姿を組み合わせたテーマを考案し、いずれも説得力のあるストーリーとデザイン制作物を完成させ、プレゼンテーションを行った。9 月 26 日～28 日の計 3 日間、六本木 AXIS ギャラリーで展示・プレゼンを行った。

株式会社金沢村田製作所（白山市）の従業員に向け、昼夜を問わず楽しめる体験型イルミネーションを約1年かけて制作した。

5年目となる今回は「Microcosmos（マイクロコスモス）」をテーマに、小さな電子部品がつながり、大きな世界へ広がる様子を光と構造で表現。作品は、始まりを示す「起点」、人の関わりで光が変わる「TouchLight」、光の集散を象徴する「Growgather」の3点で構成した。

素材選びや構造を工夫し、昼間は自然光や紅葉と調

和させ、夜はLEDによる宇宙のような空間を演出。昼夜で異なる魅力を創出した。本プロジェクトは、学生主体の企画・制作を通じ、デザインとテクノロジー、そして社会とのつながりを実践的に学ぶ貴重な産学連携の機会となった。



Touch Light



Grow gather



起点



キックオフ打ち合わせ



最終デザインプレゼンテーション



点灯式

〔委託者名〕
株式会社金沢村田製作所

〔期間〕
2025年4月～2026年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
畝野 裕司 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
鳥井 菜七子 ホリスティックデザイン専攻3年
三代 杜良 ホリスティックデザイン専攻3年
泉谷 寛次 ホリスティックデザイン専攻2年
服部 憲二 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2025年
4月15日 キックオフ打ち合わせ
5月22日 アイデア方向性確認打ち合わせ
6月19日 中間デザインプレゼンテーション
7月17日 最終デザインプレゼンテーション
10月30日 施工状況現地最終確認
11月5日 活動報告会・点灯式

岩崎純教授の指導のもと安全に執り行われた。

完成作品は複数の異なるリズムが同時に演奏される音楽表現を意味する《polyrhythm》と命名された。作品に添えたキャプションには、「布・繊維を用いた5つの異なる表現（糊染、蠟染、絞染、綾織、ワッフル織）が同じ空間で交わり、調和し、一つの作品となることで空間、鑑賞者、社内全体に良い流れをもたらすことを願って制作した。」と記されている。

介護福祉事業所である株式会社さくらCom、その新社屋事務所スペースに設置するアートのデザインの企画と実制作及びスペースへの設置に、工芸科染織の学生5名が取り組んだ。

先方との顔合わせ並びに学内での教員とのミーティングを踏まえ、5名がそれぞれ作品のアイデアを考え、デザインと資料を作成の上、プレゼンテーションに臨んだ。結果、5名それぞれの染織技法を活かして制作した布を、縦60cm×幅10～30cmで厚みのある木製パネルに張り込み、それらをユニットとして連結することで幅350cmの作品とするアイデアが採用された。木製パネルの制作やパネルユニットの連結作業は



学生のプレゼンテーション



染色布のパネル張り



パネルユニットの組付け



作品設置作業

〔委託者名〕
株式会社さくらCom

〔期間〕
2025年5月～10月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
加賀城 健 教授 工芸科
岩崎 純 教授 美術科 油画専攻

〔参加学生〕
石井 佑宇馬 大学院 工芸専攻2年
石渡 結 大学院 工芸専攻2年
矢賀 紀蓉佳 大学院 工芸専攻2年
高橋 稜 大学院 工芸専攻1年
並木 舞花 工芸科4年

〔開発日程〕
2025年
5月12日 先方来校、初顔合わせ
5月19日 学生と教員、打ち合わせ
6月17日 作品アイデアのプレゼン
6月19日 先方にプレゼン資料送付
7月4日 作品デザイン・配色決定
7月5日～9月4日 布制作及び木工作業
9月1日～9月4日 パネルユニット組付け
9月8日 作品搬入及び設置作業
10月3日 先方来校、挨拶

本プロジェクトでは、味や見た目に加え、「開ける瞬間の体験価値」に着目したパッケージデザインの開発に取り組んだ。

近年、お菓子の購買動機は多様化し、視覚や触覚、開封時の期待感といった体験全体が重要視されている。本演習では、開封という行為を「体験」として再定義し、ユーザーの感情に働きかけるデザインを探索した。学生たちは、形状・構造・素材・ストーリーを横断的に検討し、企画からネーミング、パッケージまで一貫して制作を行った。具体的には、「WAVE 板チョコ」は波打つ立体形状により、どこから割るかによって体験が変化する楽しさを提案。また、「鉱石の中に

原石が眠る琥珀糖」は、外側を壊すことで内側の価値に出会うという開封体験を設計した。

本プロジェクトを通して、パッケージを単なる容器ではなく「体験をデザインするメディア」として捉える視点を提示し、これからのお菓子デザインの可能性を示した。



惑星ボラの美



WAVE 板チョコ



あま〜い原石



ミカクニンおやつ



みのりゼリー

本取り組みは、三菱電機株式会社・金沢市・金沢美術工芸大学による産官学連携のもと、金沢市の未来都市像の基本方針と、三菱電機の注力領域を掛け合わせ、「未来を拓く文化都市・金沢をつくる」というテーマで実施したものである。三菱電機統合デザイン研究所のデザイン思考開発プロセスを軸に、5回のワークショップを通じて、リサーチから検証までの流れを段階的に学び、実践した。学生は街でのインタビューから得た一次情報をもとに、実在の人物像に基づいたペルソナを設定し、課題をサービスや仕組みとして具体的にデザインした。さらに昨年度提案の継続として、用水を活用した発電デバイスのプロトタイプを制

作し、毎月用水で実証実験を行った。試作と検証を重ねる中で課題を調整し、最終的には発電・発光の確認に至った。また能楽を題材としたカードゲーム YOU NOH? も専門家の監修を受けて制作した。これらの実践を通じて、社会実装に向けた広がりが見え始めている取り組みである。



「九谷旅」酒蔵巡りを通し、九谷焼に愛着が湧く体験と仕組みの提案



「ゆけむりサイエンス」銭湯を、科学を体験できる学びの場へ。



「nokiakari」暖簾を活用した、観光客にも住民にも嬉しい情報提示の新しい仕組み



ワークショップでの発表風景



毎月用水で水車の実証実験。発電ユニット搭載で発光する。

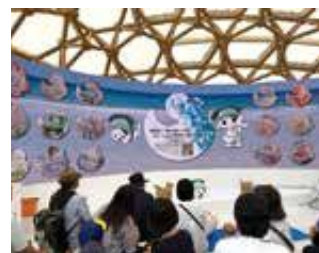
〔委託者名〕	〔参加学生〕	〔開発日程〕			
馬場化学工業株式会社	川合 理恭 環境デザイン専攻 4 年	2025 年		2026 年	
〔期間〕	西村 菜子 ホリスティックデザイン専攻 3 年	7 月 23 日	キックオフ MTG	1 月 8 日	ラビッドモデルのリアル評価会
2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	三代 壮良 ホリスティックデザイン専攻 3 年	8 月 8 日	フラッシュアイデア発表会 1	2 月 12 日	最終デザインプレゼンテーション
〔研究体制〕	服部 憲二 ホリスティックデザイン専攻 2 年	8 月 27 日	フラッシュアイデア発表会 2		
プロジェクト型		9 月 22 日	フラッシュアイデア発表会 3		
〔担当教員〕		10 月 15 日	ラビットモデル確認 1		
畝野 裕司 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻		11 月 12 日	ラビットモデル確認 2		
		12 月 8 日	中間デザインプレゼンテーション		

〔委託者名〕	〔参加学生〕	〔期間〕	〔研究体制〕	〔担当教員〕
三菱電機株式会社 統合デザイン研究所	山口 雄人 大学院 デザイン専攻 1 年	2025 年 7 月～ 2026 年 3 月	授業導入型	入矢 真一 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻
	吾妻 愛太郎 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	太田 聖華 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	大宮 立義 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	児玉 結音 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	田村 侃 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	東郷 荘太郎 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	中村 理人 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	南野 結 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	西木場 友希 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	前川 楓果 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	松尾 一輝 インダストリアルデザイン専攻 3 年			
	松尾 知門 インダストリアルデザイン専攻 3 年			

見神 隆之介	インダストリアルデザイン専攻 3 年	10 月 1 日	WS1 事前課題共有
三澤 仁実	インダストリアルデザイン専攻 3 年	10 月 16 日	WS2 気づきの抽出、 ペルソナ設定
道林 南美	インダストリアルデザイン専攻 3 年	10 月 28 日	WS3 問いの設定と アイデア展開
森 頌真	インダストリアルデザイン専攻 3 年	11 月 14 日	WS4 インタビューと プロトタイプینگ
安田 和平	インダストリアルデザイン専攻 3 年	11 月 28 日	最終プレゼンテーション
山内 はんな	インダストリアルデザイン専攻 3 年		
山下 一颯	インダストリアルデザイン専攻 3 年		
〔開発日程〕		2026 年	
2025 年		3 月 5 日	金沢市役所 成果発表会
7 月～ 8 月	事前準備と産官学連携の 調整	3 月 5 日～ 28 日	金沢市役所第二本庁舎展示
9 月～ 10 月	事前課題・リサーチ		



今回の企画内容



プレゼンテーション会場

サラヤ株式会社と対馬市が取り組む「ブルーオーシャン対馬」プロジェクトの一環として、金沢美術工芸大学デザイン科では、昨年度の「スタートデザイン」課題として本テーマに取り組んだ。8チームの提案の中から採用された「おとーしゃと想いの波」の企画をもとに、6月22日から23日に開催された大阪・関西万博「ブルーオーシャンドーム対馬ウィーク企画」において、学生が制作したキャラクターや絵馬、映像などをういたプレゼンテーションおよびワークショップとして発表した。本企画では、対馬に伝わる海の神話の世界観や、辺境でありながら大陸文化と最先端イノベーションをもたらしてきた史実を背景に、海の社会



プレゼンテーション参加関係者



プレゼンテーション



絵馬ワークショップ



学生がデザインした絵馬

課題の縮図である対馬を題材とし、本来の美しく豊かな海を取り戻し次世代へつなぐことを目的とした発信を行った。また、学生にとっては、社会課題を自分ごととして捉え、地域の文脈や歴史を踏まえながら表現へと昇華する実践的な学びの機会となった。

株式会社地域未来創造からの依頼を受け、金沢駅観光情報センター展示コーナーにおける工芸の魅力発信事業の一環として、工芸科学生による作品展示及び関連イベントに参画した。作品展示では、13名の学生による作品を公開した。併せて実施した作品説明会には11名の学生が参加し、各自の作品について、制作意図、技法、素材等を来場者に説明した。作品販売会には5名の学生が参加し、展示スペース横において自作の工芸作品の販売を行った。これらの取組を通し



て、国内外の観光客及び地域住民との交流を図るとともに、工芸の魅力を広く発信する機会となった。さらに、地域未来創造が運営する「みんなでつくる、北陸のモノ・コト発掘サイト COREZO®」においても、会期に合わせて学生作品を掲載し、販売を行った。

[委託者名]	
サラヤ株式会社 対馬市	
[期間]	
2025年2月～2026年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻
北村 賢哉 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

[参加学生]	
神谷 門渡	ホリスティックデザイン専攻2年
桜井 萌華	ホリスティックデザイン専攻2年
西岡 千沙	ホリスティックデザイン専攻2年
古屋 和花	ホリスティックデザイン専攻2年
山崎 陽葵	ホリスティックデザイン専攻2年

[開発日程]	
2025年	
2月10日～3月30日	キャラクターデザイン、 絵馬、映像などデザイン制作
4月22日	万国博覧会向け 映像データ提出
5月1日	万国博覧会向け プロダクトデータ提出
6月12日	万国博覧会向け プレゼンテーション リハーサル（リモート）
6月20日～22日	万国博覧会ブルー・ オーシャンドーム プレゼンテーション+ ワークショップ 対馬市などフォーラム 等で制作したキャラク ターなどが展開

[委託者名]	
株式会社地域未来創造	
[期間]	
2025年6月～12月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
宮永 春香 准教授	工芸科
金保 洋 講師	工芸科
加賀城 健 教授	工芸科

[参加学生]	
張 陽	大学院 博士後期課程2年
劉 天愷	大学院 博士後期課程1年
大村 怜子	大学院 工芸専攻1年
小池 さくら	大学院 工芸専攻1年
菅沼 稜子	大学院 工芸専攻1年
川崎 叶乃	大学院 工芸専攻1年
津田 珠緒	大学院 工芸専攻1年
吉川 杏	大学院 工芸専攻1年
飯嶋 さくら	工芸科4年
桐山 珠美	工芸科4年
寺嶋 勇人	工芸科4年
並木 舞花	工芸科4年
宮城 葵色	工芸科4年
山田 聖和	工芸科4年

[開発日程]	
2025年	
6月16日	ミーティング
7月9日	コレゾ金沢への掲載説明会
7月11日	設営作業
9月28日	展示説明会&販売会
9月30日	搬出

今年 24 年目を迎えるめがね部活動の一環として、福井県眼鏡協会との産学連携体制のもと、「めがねのまち鯖江」をアピールする目的で眼鏡関連企業に制作してもらうモニュメントをデザインする活動を行った。今年の参加学生は 1、2 年のメンバーを 3 つのグループに分け、先輩からのアドバイスを受けながら各自の提案をまとめていった。今年度からはメガネフェスでの展示投票も行い、優秀案及び来場者からの支持が多かったアイデアが会場ステージでの表彰を受け

た。提案したアイデアは眼鏡協会協力のもと、iOFT 国際メガネ展での出展公開が行われた。また、昨年度鯖江市からの制作提案があったメガネ会館館前のバス停についても今年度完成し、メガネフェス当日のお披露目が行われた。



メガネフェス 2025 ステージでの表彰



鯖江市メガネ関連企業を訪問見学



メガネフェス 2025 への展示参加



昨年度選出のメガネデザインバス停が完成



昨年度選出されたモニュメントが完成

[委託者名] 一般社団法人 福井県眼鏡協会	
[期間] 2025 年 7 月～ 2026 年 3 月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 矢島 幹生 准教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	

[参加学生] A GROUP	
今井 るな	インダストリアルデザイン専攻 2 年
河野 初夏	インダストリアルデザイン専攻 2 年
佐藤 あすか	インダストリアルデザイン専攻 2 年
寺山 映人	インダストリアルデザイン専攻 2 年
久保 裕生	インダストリアルデザイン専攻 1 年
玉本 風斗	インダストリアルデザイン専攻 1 年
辻村 大介	インダストリアルデザイン専攻 1 年
吉田 莉彩	インダストリアルデザイン専攻 1 年
B GROUP	
浅井 香鈴	インダストリアルデザイン専攻 2 年
菅崎 瑞希	インダストリアルデザイン専攻 2 年
筒井 徹心	インダストリアルデザイン専攻 2 年

村上 彩華	インダストリアルデザイン専攻 2 年
大城 憂宇太	インダストリアルデザイン専攻 1 年
玉本 駿斗	インダストリアルデザイン専攻 1 年
西田 彩乃	インダストリアルデザイン専攻 1 年
宮島 快	インダストリアルデザイン専攻 1 年
C GROUP	
鈴木 優花	インダストリアルデザイン専攻 2 年
廣渡 桃華	インダストリアルデザイン専攻 2 年
三宅 航	インダストリアルデザイン専攻 2 年
山崎 ゆめ	インダストリアルデザイン専攻 2 年
尾崎 功明	インダストリアルデザイン専攻 1 年
竹中 愛晴	インダストリアルデザイン専攻 1 年
殿木 創	インダストリアルデザイン専攻 1 年

[開発日程] 2025 年	
4 月 28 日	Kickoff、テーマ発表、チーム編成
6 月 25 日	メガネ部内 中間プレゼンテーション オープンキャンパスでの活動紹介
7 月 19 日	眼鏡協会へのオンライン 中間プレゼンテーション
7 月 24 日	鯖江市眼鏡協会との打ち合わせ、工場見学
8 月 21 日	ボードデータ提出
9 月 9 日	メガネフェス参加
9 月 21 日	美大祭にて展示
11 月 1 日～ 3 日	

東北レインボーハウスは 2011 年の東日本大震災で家族を失った子どもたちの心のケアの拠り所として、あしなが育英会が仙台、石巻、陸前高田の 3 箇所で開催を行っている。
この事業は製品デザイン専攻の有志の学生たちと三谷産業が 2016 年に「ものづくりワークショップ」を石巻レインボーハウスで開催したことが始まりで、以降毎年ワークショップを開催してきたが、被災した子どもたちが全員中学校を卒業する今回をもって最終回となった。参加学生たちは、ワークショップの全体プランの計画、準備、制作、実施までを行っている。毎年新たな内容を考え、今年度は 3D プリンターで制作

した、くす玉や顔の形のマグネットとキーホルダー、ハーブや香りをつけた石鹸作りのワークショップを行った。この 3 つのワークショップは、子どもたち、保護者、ファシリテーターを参加者とし、それぞれが自由に、他の参加者の制作の様子を感じながら制作できるように、体育館の大きな空間に集めた形で行った。制作を行いながら、参加者と学生たちの間で交わされる何気ない会話が心の癒しにつながり、何度も参加している子どもたちと学生たちとの間に深い絆が生まれた。最後に、それぞれの作品の完成を喜びながら、全員で作ったくす玉を割って 10 年間の締めくくりとなるワークショップを終えた。



ワークショップの案内フライヤー



被災地訪問（石巻市大川小学校など）



完成した顔マグネットをお披露目する



制作したくす玉を吊るしフィナーレの準備



ワークショップ開催の様子

[委託者名] 三谷産業株式会社	
[期間] 2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 安島 諭 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	

[参加学生]	
坂東 凜汰朗	大学院 デザイン専攻 2 年
西田 恵美里	製品デザイン専攻 4 年
山西 優心	製品デザイン専攻 4 年
伊藤 はな	環境デザイン専攻 4 年
藤井 七星	環境デザイン専攻 4 年
三澤 仁実	インダストリアルデザイン専攻 3 年
道林 南美	インダストリアルデザイン専攻 3 年
筒井 徹心	インダストリアルデザイン専攻 2 年
廣渡 桃華	インダストリアルデザイン専攻 2 年

[開発日程] 2025 年	
4 月 21 日	キックオフミーティング
5 月 12 日	企画案調査報告会
5 月 26 日	企画案プレゼンテーション
6 月 23 日	実施案ミーティング
7 月 26 日	仙台会場下見・打ち合わせ
7 月 27 日	被災地視察
8 月 25 日	製作ミーティング・制作開始
8 月 29 日	フライヤー送付
10 月 20 日	最終確認ミーティング

10 月 30 日	材料・説明書発送
11 月 8 日	ワークショップ開催
2026 年	
2 月 17 日	記念色紙の制作・送付

小松ウオール工業株式会社の基幹部材である「木製パネル」を対象とし、学生の自由な発想によってこれまでにない用途や空間の在り方を提示することを目的として取り組んだ。大学院生から学部生まで、複数の専攻にわたる9名の学生が参加し、オフィスや学校、公共施設など様々な場における新しい空間体験の視覚化に挑んだ。

活動プロセスでは、工場にて実施された企業勉強会や工場・ショールーム見学を通じて、素材の特性や製造工程への理解を深めた。その上で、コンセプト立案、ラピッドモデル制作、イメージCGの作成へと段階的に進めた。特に、原寸モデルによる検討では、大量の

段ボール板を用いて素早く沢山のアイデアを確認しながら可能性を追求した。最終発表会では、それらの検証を踏まえ、実社会への実装を視野に入れた具体的な提案がなされた。

選抜された案については、今後さらなるブラッシュアップを行い、製品化の可能性を追求していく。企業の高度な製造技術と学生のクリエイティビティを融合させることにより、間仕切りという用途を超えた、木製パネルの新たな活用の可能性を模索する機会となった。



最終発表



オリエンテーション



工場見学



中間検討会



原寸検討

〔委託者名〕
小松ウオール工業株式会社

〔期間〕
2025年10月～2026年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
北村 賢哉 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
門脇 春風 大学院 デザイン専攻1年
前川 桃葉 大学院 デザイン専攻1年
西村 妃菜美 環境デザイン専攻4年
石神 結奈 ホリスティックデザイン専攻3年
出雲 涼菜 ホリスティックデザイン専攻3年
柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻3年
西村 菜子 ホリスティックデザイン専攻3年
加藤 優月 ホリスティックデザイン専攻2年
山崎 陽葵 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2025年
10月10日 オリエンテーション
10月15日 工場見学・SR見学
10月24日 中間検討会1
11月6日 中間検討会2
11月14日 最終発表会

石川県少年サッカー新人大会は開催48回を迎える、全国的に見ても歴史の長いサッカー大会である。サッカー選手を志す数多くの小学生にとっては登竜門とも言える本大会を、今年度から株式会社金太が協賛する事となった。大会タイトルもKINTA CHAMPIONSHIPと冠したものに一新するに当たって、入賞者のためのメダルデザイン、トロフィーの制作を担当することとなった。7月スタートかつ大会は9月という超短納期に対応するため、学生からはアイデア提出を依頼し、メダル制作に向けた作り込みは教員が担当することでクオリティを確保した。トロフィーに関しては共通工房金属加工機械室の技術専門員に

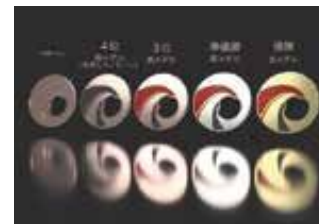
デザイン制作を依頼し、ステンレス素材でサッカーボールを模した重厚なデザインのもの完成了。大会当日には1位から4位までの4チームにそれぞれメダルが授与され、優勝チームにはトロフィーが手渡された。トロフィーは大会ごとに優勝チームへと引き継がれていき、メダルも当面の間今回制作したデザインのものが製造され、毎年の参加者の栄誉を称えるものとして引き継がれていく予定である。



共通工房多々見さん制作の優勝トロフィー



1位～4位まで授与される記念メダル



メダルの詳細検討



メダルデザインデータ

〔委託者名〕
株式会社金太

〔期間〕
2025年7月～12月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
矢島 幹生 准教授 デザイン科
インダストリアルデザイン専攻

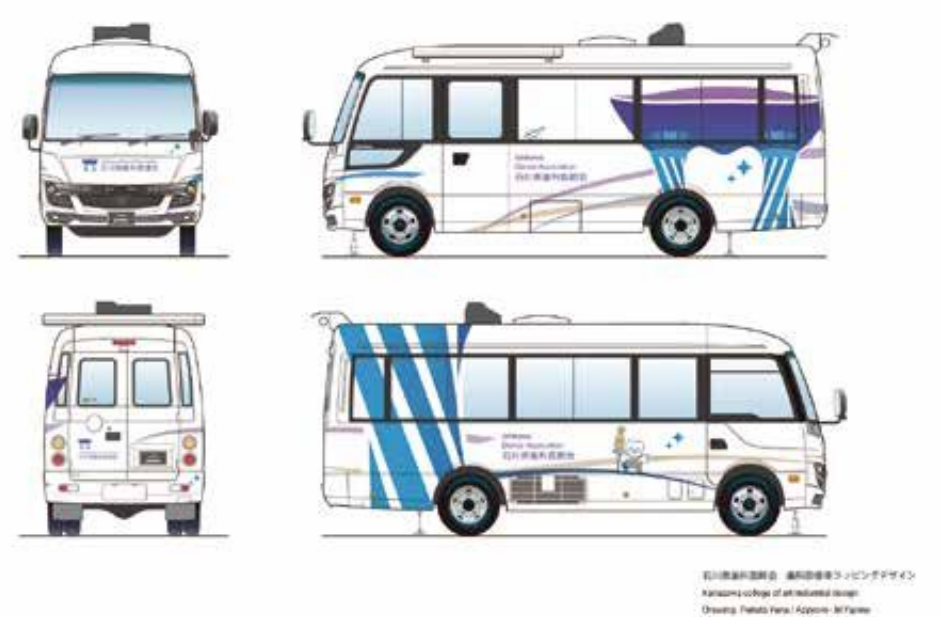
〔制作協力〕
多々見 草太 技術専門員

〔参加学生〕
吾妻 愛太郎 インダストリアルデザイン専攻3年
森 頌真 インダストリアルデザイン専攻3年

〔開発日程〕
2025年
7月1日 デザイン依頼内容確定
7月14日 デザインラフ提出
7月23日 デザインデータ出図
7月24日 デザイン案承認
7月28日 トロフィーデザイン案承認
9月7日 KINTA CHANPIONSHIP
第48回石川県少年サッカー新人大会
トロフィー・メダル授与

石川県歯科医師会では、訪問歯科診療や地域への歯科医療サービスの提供を目的とした診療車の導入を予定しており、その外観ラッピングデザインを本学学生が担当することとなった。能登震災の際には医療インフラも大きく被害を受けたが、石川県は歯科専用の診療車を保有しておらず、福井県からの車両貸与を受けるなどして対応に当たったという経緯があった。そのため新規に車両を制作するにあたっては石川県らしさを感じ、利用者にとっても快適さを感じられるような外観が求められた。デザイン納品までが比較的短納期であったため、経験値の高い学部4年生から有志3名に依頼し、14案のラフアイデアを提出した。そこ

から2案に絞り込みが行われ、ブラッシュアップした案で選考が行われた。最終的には石川県歯科医師会のシンボルマークをアレンジしてデザインに展開した、福田案が選出された。1月から実車施工が行われ、白い車体色を活かした明るく清潔感のある車両が完成した。2026年の4月に石川県庁にて関係者にお披露目が行われ、これからの地域歯科医療を支える存在として期待が寄せられている。



車両施工イメージ



既存の歯科医師会のシンボルマークに合わせたロゴタイプを制定



フィルム施工の様子



シンボルマークを大きくあしらったデザイン

[委託者名]
石川県歯科医師会

[期間]
2025年10月～2026年3月

[研究体制]
プロジェクト型

[担当教員]
矢島 幹生 准教授 デザイン科
インダストリアルデザイン専攻

[参加学生]
畠野 遥 製品デザイン専攻4年
福田 結菜 製品デザイン専攻4年
山西 優心 製品デザイン専攻4年

[開発日程]
2025年
10月28日 概要説明
11月13日 中間レビュー
11月21日 中間案選定(2案)
12月18日 決定案送付

2026年
4月16日 車両お披露目会

A01 A02 A03 A04 A05 A06 A07 A08
A09 A10 A11

連 携 協 定 事 業

A12	志賀町絵画教室 体験しよう！“ 創る ” たのしさと、“ 造る ” よろこび。 —————	52
A13	金沢大学との連携事業 能登復興支援 「のともっと デッサン交流会」 —————	53
A14	北陸銀行 金沢中央支店における作品展示 —————	54

本事業は、志賀町の中高生を対象とした造形指導を通じて、地域活性化および本学の教育・研究成果の社会還元を図るものである。本年度は、コロナ禍により中断していた「志賀町・絵画塾」を継承・再編し、「志賀町絵画教室」として全2回の講座を開講した。第1回「石膏デッサンー木炭で描く」では、対象の観察および画面構成を通じた造形の基礎習得に主眼を置いた。第2回「シルクスクリーンによるワークショップ」では、Tシャツやトートバッグの制作を实践し、版画技法の基礎と表現の応用可能性を教授した。受講した中高生は、いずれの回においても真摯に制作へ取り組み、造形表現への高い関心を示した。特に初体験と

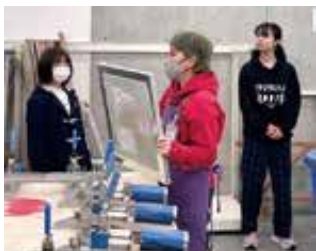
なるシルクスクリーン技法を用いたオリジナル作品の制作では、技法の特性を理解しようとする意欲的な姿勢が見受けられ、実践的な学びを享受する有意義な機会となった。本学の教員および学生が直接指導を担う本事業は、地域の中高生にとって専門的な美術教育に触れる貴重な場となっており、今後も地域社会との連携を深化させ、継続的な実施と教育支援体制の拡充を目指す。



石膏デッサン



講評会の様子



シルクスクリーン体験



シルクスクリーン体験

昨年度に引き続き、能登地区の中高生と大学生がデッサンを通して交流する機会として、のと里山空港ターミナルビルにある大学コンソーシアム石川能登分室でワークショップを開催した。

当日は、能登各地から中学生6名、高校生5名、計11名が参加し、両大学の学生ボランティア11名からデッサンの解説や、制作する中で具体的なアドバイスを受けた。今回の参加者は初めてデッサンをする生徒や、それぞれの学校の授業では十分な時間をかけられないため、ほとんど体験がない生徒も多く、両校の学生たちは協力しながら生徒一人ひとりに丁寧な声掛けを行った。学生自身は一緒にデッサンを行ったり、

持参した学生のデッサン作品なども併せて見せたりしながら、参加者のモチーフ選びの相談に乗ったり、デッサンのコツを伝えていた。参加者もそれに応じて集中してデッサンに取り組み、参加者からは学生から基本的なところから教えてもらえてデッサンが上達したという声も聞かれた。また、学生からの暖かな声かけをもらえ、学生たちと話せたことや、他の参加者との学年を超えた交流なども楽しんでいただようである。今年度も、時間をかけたデッサンを通して、参加者、ボランティア学生全体でゆっくりと交流することができた。



能登各地から集まってくれた生徒と両大学の学生ボランティア



生徒は自分で選んだモチーフでデッサンに挑戦。両大学の学生と一緒にアドバイス。



本格的な石膏デッサンにチャレンジする生徒



学生主導で進められた



学生が制作したポスター(表面)

〔委託者名〕
志賀町教育委員会生涯学習課

〔期間〕
2025年11月～12月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
岩崎 純 教授 美術科 油画専攻
武田 雄介 准教授 美術科 油画専攻

〔参加学生〕
畑中 みずぎ 大学院絵画専攻1年
吉田 華 大学院絵画専攻1年
浅野 菜月 油画専攻2年
架谷 七海 油画専攻2年
八木 美穂 油画専攻2年

〔開発日程〕
2025年
8月4日 志賀町初回打合せ
11月18日 石膏デッサン
ー木炭で描くー
12月6日 シルクスクリーン

〔共催〕
金沢大学社会共創推進部地域共創支援課
〔期間〕
2025年7月～2026年3月

〔体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
＜金沢美術工芸大学＞
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホルスティックデザイン専攻
桑村 佐和子 教授 一般教育等
大森 啓 教授 油画専攻

＜金沢大学＞
三浦 要 理事(企画評価・地域共創・広報戦略担当)
/ 副学長

大村 雅章 教授 人間社会研究域学校教育系
江藤 望 教授 人間社会研究域学校教育系

〔参加学生〕
＜金沢美術工芸大学＞

山本 一葉 油画専攻3年
笠井 麟太郎 油画専攻2年
菊池 あすか 油画専攻2年
熊崎 啓太 油画専攻2年
架谷 七海 油画専攻2年
ひび井 一道 油画専攻2年
兵藤 瑛美莉 油画専攻2年

永井 咲楽 油画専攻1年
松田 有加 芸術学専攻3年

＜金沢大学＞
蔵谷 保乃可 学校教育学類4年
井口 絢日 学校教育学類3年
大杉 咲嘉 学校教育学類3年
山本 夏未 学校教育学類3年

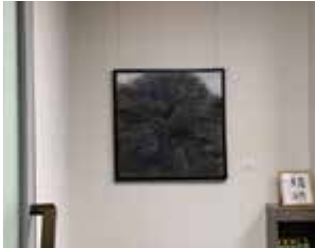
〔開発日程〕
2025年
7月22日 両大学の教員間で相談
(オンライン)
11月中旬 日程の確定、学生ボラン
ティアの募集、及びチラ
シのデザイン制作開始
2026年
1月8日 金沢美大にて両大学の学生
と教職員での打ち合わせ
以降、SNSを用いた意見
交換
3月28日 デッサン交流会の実施

本企画は本学と北陸銀行の連携協力に関する協定に基づき、学生の研究成果発表の場を提供するとともに、文化芸術を地域社会に発信する機会とするものである。

銀行内の応接室や会議室などに本学大学院修士課程絵画専攻学生の作品を展示することで職場環境に潤いを与えるとともに、行員はもとより来客等にも絵画を鑑賞する場を提供し、芸術による豊かな空間を創出している。



展示作業



佐伯 龍進 「行路」



高橋 紀子 「開かれない戸」



長沢 拓実 「ふれて（しまう）」



吉田 華 「Can't stop」

〔委託者名〕
株式会社北陸銀行 金沢中央支店

〔期間〕
2025 年 11 月～ 2026 年 11 月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
松崎 十郎 教授 美術科 日本画専攻
三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻

〔参加学生〕
佐伯 龍進 大学院 絵画専攻 1 年
高橋 紀子 大学院 絵画専攻 1 年
長沢 拓実 大学院 絵画専攻 1 年
吉田 華 大学院 絵画専攻 1 年

〔 過去 5 年間の社会連携研究数 〕

年 度	総 数	地域連携事業	産学連携事業	連携協定事業
2021 (R3)	27	13	13	1
2022 (R4)	29	20	8	1
2023 (R5)	31	20	10	1
2024 (R6)	36	20	13	3
2025 (R7)	43	25	15	3
計	166	98	59	9

※報告書掲載数は複数年に渡る事業も含む。

〔 2025 年度 社会共創センター会議 〕

社会共創センター担当理事：
寺井 剛敏

社会共創センター長：
河崎 圭吾

事務局次長：
桜木 和也

地域連携部門長：
岩崎 純

産学連携部門長：
畝野 裕司

知財管理部門長：
宮永 春香

事務局：
酒井 伸義
大谷 優香
大野 拓海

コーディネーター：
浅野 隆

〔 報告書制作 〕

編集・アートディレクション：
浅野 隆

編集協力・版下製作：
株式会社 ドゥーイング

印刷：
株式会社 大和印刷社

発行：
公立大学法人 金沢美術工芸大学
〒 920-8656
石川県金沢市小立野 2 丁目 40 番 1 号
TEL 076-262-3531
FAX 076-262-6594
<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

発行日：
2026 年 6 月

※本書の全部または一部を無断で複写・複製することを禁じます。



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野2丁目40番1号

TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

2-40-1 Kodatsuno, Kanazawa, Ishikawa

920-8656, Japan

TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594

